

社会福祉法人 原町成年寮

2021(令和3)年度 事業報告

目次

法人総括	-----	P1
葛飾通勤寮	-----	P3
奏かつしか	-----	P17
Craft(クラフト)	-----	P20
かつしかセンター	-----	P28
サザンクロスかつしか	-----	P29
ドロップ	-----	P33
はんもっく	-----	P34
糸でんわ	-----	P35
奥戸福祉館	-----	P36
アンジュ	-----	P44
シード/フォレスト/就労定着支援センター	-----	P49
シャイン	-----	P51
シャングリラ	-----	P58

## 1 原町成年寮基本理念

### ① 就労・自立生活に向けた支援

原町成年寮は、一人ひとりの自立した社会生活を実現するため、多様な就労・日中活動支援を行っています。利用者の皆様が、社会の一員としての役割と責任を担いつつ、活躍し成長していただけるよう、日々支援しています。

### ② 豊かな人生をおくることへの支援

原町成年寮は、健康で安心・安全な生活を保障し、利用者の皆様が望む生活の実現をサポートしています。一人ひとりの個性を尊重し、日々の生活で豊かさを感じていただけるよう支援しています。

### ③ 地域社会への貢献をめざす支援

原町成年寮は、地域との交流や情報交換を行い、利用者の皆様が地域社会の一員として貢献できるよう支援しています。

## 2 法人計画

・第8次プロジェクトに伴う、法人2か年計画を実行する。

### ① 着実な世代交代

社会福祉法人の使命である事業継続のため、統括制度をつくり次世代育成を図った。

### ② グループホームの老朽化及び利用者の高齢化のハード対策

第一原町成年寮の移転先を確保するため、エレベーター2基を備えた定員10名のユニット「るりはな」を建設。高齢化に対応する一歩となった。第一原町成年寮は次の高齢化対応ユニットの建設のため解体した。

### ③ 通所事業所再編

Craft に生活介護事業所を追加設置する計画を立てた。自閉症対応事業所は次期計画に伸ばした。

### ④ 法人防災拠点整備

奥戸福祉館の改修計画はまだ途中段階にとどまっている。

### ⑤ 人材育成成長研修委員会による研修制度の進化

新人研修の充実を図ることができたが、全体研修等はコロナ禍の影響で未実施。

### ⑥ 職員採用活動推進及び研修充実・福利厚生充実による法人職員就労継続推進

採用困難な状況が続いている。第8次プロジェクト中間見直しで対策を練ることとする。

- ⑦ 通勤センター還暦の研修及び式典等を検討  
コロナによる影響等を考慮し実現できず。
- ⑧ 葛飾区地域生活支援拠点事業の参画  
葛飾区緊急一時保護事業は3月末で事業受託終了。相談支援及びグループホーム体験事業等での地域貢献を検討中。
- ⑨ 人事考課制度の着実な進行  
2022年度考課制度の見直しを計画中。
- ⑩ グループホーム事業所の事務所移転  
第2かつしかセンター事務所を援助センター3階に移転。各事業所が身近にあることによる協力体制を今後も検討する。

## 葛飾通勤寮 令和3年度事業実績報告

### 一 総括

今年度も新型コロナウイルスに翻弄され、通勤寮運営全般に関して大きな影響があった年だった。入寮者は男子1名が児童養護施設出身で、それ以外は全員家庭からの入寮だった。今年度は家庭での支援が難しいというより、親離れ子離れを意識した入寮が多かった。新型コロナウイルスの影響で、入寮希望者も少なく、さらに見学や面接、体験入寮も度重なる緊急事態宣言の発令が影響し、自粛を余儀なくされたために、入寮者が減少し、平均利用在籍者数は過去最低となった。

令和3年度の利用者の動きとしては、入寮が男子4名・女子2名の6名、移行は男子10名・女子2名の12名だった。

家庭からの入寮では、親離れ子離れの支援が重要となり、家庭との連携が不可欠となる。今年度入寮者の家庭は通勤寮の役割を一定程度理解していただいていると評価している。一方で家族によっては、子供かわいさの気持ちが優先され、本人の自立の妨げとなってしまいう場面も見られた。家族側も本人と一線を置きながら、通勤寮としては定期的な状況報告などを丁寧に実施していく必要がある。

入寮者が少ない中、標準利用期間が満了する利用者は卒業させなければならない。家庭でも自立に向けてGHに移行する希望が多い。運営法人としてもGHの空きがほとんど無く、「奏かつしか」事業所として新規開設する必要があり、8月に男性寮2カ所開設し、利用者の移行が可能となった。しかし、女性寮が少ないため、今後の課題となる。相談支援事業や他法人との連携も課題となる。

### 二 利用者主体の支援と具体的取り組み

#### 1 新型コロナウイルスと利用者の生活・精神状況

コロナウイルスの影響により、出勤が制限され、自由な外出、余暇も制限され、生活状況、メンタルが崩れてしまう利用者も出てきた。週2・3日の出勤と待機日を繰り返す中で、仕事への自信がなくなり、人間関係も崩れていく。待機日が多くなると精神的負荷が平常より多くかかってしまうことがあることを理解した。職場訪問もかなり制限され、職場での状況把握も困難な場合が多かった。もともと精神的な不安定さがある利用者には、精神状況を早い段階で察知し、メンタルケア等必要な支援にとりくむ必要がある。

#### 2 通勤寮（宿泊型自立訓練事業）の目標と支援原則

一 障害があっても社会に貢献できる人材を育てるということを大きな目標とする。

親離れ子離れを目指し、利用者本人が自分の人生を「自ら選択」できるようになることを目標とする。

① 4つの自立を獲得目標の柱とし、自分自身の「強み」と「課題」を理解できるようになること。

##### 1. 生活の自立

（身のまわりのことを自分でできるようになること。時間を意識し、生活リズムを確立すること）

##### 2 経済的自立

（就労の安定。社会貢献していることを意識できる。自分の給料で金銭管理ができるようになること。

障害基礎年金の受給。)

### 3 社会的自立

(適切なコミュニケーションを身につける。他者と良好な関係が築ける。法令や社会規範・社会倫理を理解し、大人としての行動を意識できるようになる。)

### 4 精神的自立

(相手を思いやることができる。自身の気持ちに素直になり、自分の意見を伝え、精神安定を目指す。)

② 自分の人生を「自分で選択」できるようになり、確実な自立を目指す為に必要なこと。

1. 自分の考えや思いを表現できるようになること。
2. 率直に自分の課題を認め、強みを伸ばせるようになること。
3. 生活を整え、就労継続できる精神と力をつけること。
4. 着実に社会の一員としての自信をもつこと。

## 二 自立し豊かな生活を実現するための支援内容

1. 3ヶ月に一度の個別支援計画で、利用者の考えや想いを引き出し、強みを最大限に伸ばす支援。
2. 生活を整えるための、個々の生活のリズムを確認・確立する支援。
3. 日々の生活の中で、金銭ノートを活用し、金銭感覚を養う。
4. 利用者個人の想いを利用者個人が引き出せる支援。それを受け止める支援。
5. 個人の生活を尊重し、通勤寮後の生活を意識した支援。
6. 職場訪問を定期的実施、職場と連携し、安定した就労を支援。
7. 集団での生活で、帰属意識を養う支援。
8. 金銭、身辺、性教育等のプログラムの活用。余暇の充実。
9. 通勤寮で親離れ子離れができるような、保護者を含めた支援。また適切な距離が取れるようになることの支援
10. SNSも含めた、携帯電話の使い方や、世の中の動きを利用者に適切に伝えて行くような支援と併せて性教育にも力をいれる。

### 3 獲得目標4点についての具体的取り組み

寮内での密を避ける必要から、集団での取り組みを一定制限することになり、一部具体的な取り組みが出来ないことがあり、昨年度に続き制限の中での取り組みとなった。

#### ① 生活の自立

職員夜勤明けの居室確認を徹底し、必要に応じて記録として引きつぐことを意識し、身辺や大掃除の日に、居室整理の声かけを行い、身辺処理指導を実施した。また何が困難で整理整頓が出来ないかを把握することに努めたが、具体的な指導方法は個別的なので、指導効果があがるには時間が必要である。身辺に課題のある利用者が男女とも多い。

#### ② 経済的自立

コロナウィルスの感染が終息せず、職場により感染対策が異なり、職場訪問の頻度にばらつきが出てしまった。また勤務時間・日数の短縮・自宅待機・在宅ワーク等、就労に大きな影響が出たが、給与振り分け、日常的な金銭ノートの点検などを実施した。障害基礎年金の申請では7名の利用者は家庭

の協力を得て取得することができた。児童養護施設出身者は、入寮の際に診断書作成に役立つプロフィールを準備して頂くよう要請したい。

### ③ 社会的自立

男女別のミーティング、月1回の教養講座、自治会活動などを通じて、はたらきかけを行った。教養講座としては、年間予定を立てたが、緊急事態宣言やコロナ発症者対策により年度後半は中止せざるを得なかった。通勤寮でのルール・健康管理・ごみの捨て方・歯の健康・危険から身を守る方法など講座として実施した。

### ④ 精神的自立

余暇支援、日常の相談、カウンセラーによる面談などの具体的な取り組みを実施。カウンセリングは4名が通年実施した。月1回のカウンセリング終了時にはカウンセリング記録をもとに、カウンセラーとの情報交換を行い、第三者から見る利用者の視点を日常の支援に活かしている。生育歴からくる根深い精神面の課題を抱えている利用者が多く、今後も必要な利用者を見極めて、カウンセリングや医療につなげていく必要がある。精神的自立の部分は4つの自立の中でも根幹なので、支援者の取り組みの比重も年々大きくなっているし、支援力が問われるところでもある。

## 4 オリエンテーション

新型コロナウイルス感染拡大防止と予防の観点から、昨年度に続き今年度も出張オリエンテーションは中止とした。そのかわり、通勤寮内で班ごとに3カ所に分かれてリモートで実施した。YouTubeの配信機能を使用し、密を避けて実施できている。携帯型GH利用者を含め通勤寮の支援の柱である4つの自立（生活・経済・社会・精神）について、職員からの講義の後、利用者自らの課題の確認のための個別点検表を作成している。また、自治会役員の選挙を実施した。利用者の反応が見られないのがリモートの欠点である。

## 5 プログラム全般について

通勤寮の利用者全員参加の全体行事としては、納涼祭・サマーキャンプ・班旅行・成人式・自治会企画行事があるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、食事会や集団で集まることに関しても中止とした。唯一班旅行について、感染の下火になった11月に都内日帰り旅行を実施した。成人式に関しては対象者が一人いたが、コロナ陽性者対策で通勤寮を一時的に隔離したので、開催できなかった。

## 6 週間プログラム及び余暇支援

新型コロナウイルス陽性者対策で隔離期間を2回設けたが、その他は原則、金銭（毎火曜日）・身辺（週金曜日）・自治会（月1回第4木曜日）・大掃除（月1回最終日曜日）教養（毎月第3金曜日）を実施した。

### ア 金銭学習

給与振り分け表を使っての収入と支出の学習を基に、生活費1週間管理者の支給のみの日・個別費用点検の日、振り分けの日を分けて毎週実施した。金銭管理ノートは毎日の点検を義務つけている。目標は必要な物が予算内で購入できるようになること、生活費ノートがつけられるようになることである。給与引き出しは原則利用者本人が実施しているが、困難な場合には職員が代行している。一方で複数回故意に引き出しを行うケースもあり、迅速な記帳処理が求められた。

## イ 身辺指導

身辺や大掃除また朝の居室点検の際に身辺の状況を確認し、対応や引き継ぎを行った。居室の確認については整理整頓ができていないを判断するのではなく、生活状況や特性について考慮することで、個別の支援につながると判断している。また基本的な知識として掃除洗濯の方法や頻度など時間を使って情報提供していく必要もある。

## ウ 性教育等の教養講座

### ○ 男子利用者

男子ミーティングとして、原則月1回実施予定だったが、年度後半は新型コロナウイルス陽性者隔離対策のため、密を避ける必要があったので中止とした。1年間のテーマは昨年同様「自分を知り、相手を知る」ことで、前期では「自分のことを知ること」を中心とし、後期では「相手のこと思いやること」を中心に話しを進めた。しかし、利用者の特性により、理解度に合わせて取り組んで行くことの困難さがあり、SNSの時代に合わせた内容の見直しも必要になっている。芋煮会は今年度は新型コロナウイルス陽性者が出たため、開催できなかった。

### ○ 女子利用者（茶話会）

新型コロナウイルスの影響で利用者が密になる状況を避けるため、体育館で実施。年明けからは緊急事態宣言のために、集まりを中止した。内容としては「命の大切さ」「生理による体や心の変化」「多様性を知る」「食事について考える」「ストレスに負けない体づくり」等を取り上げた。茶話会は「性」について女性同士で学び合える貴重な機会のため、今後も利用者の悩みに寄り添い、生活に活かせるように内容にしていきたい。

## エ 調理教室

新築により、新しく調理実習室が出来、IHが設置されたことにより安全に調理ができるようになった。月1回日曜日を利用し、年度を通じては3名の男子利用者に留まった。緊急事態宣言の影響で5回はボランティアの支援をお断りせざるを得なかったのは残念である。

## オ 裁縫クラブ

月1回日曜日に実施。新型コロナウイルスの影響により、ボランティアの支援を断念し開催できない月があったのは残念である。刺繍やポーチ作成に取り組み、合計で5名の利用者が参加している。

## カ 夕食会・卒寮式

新型コロナ感染防止の観点から毎月の夕食会や卒寮式は中止とし、その代わり特別食として月の終わりには「ビーフステーキ」「ポークソテー」「ローストビーフ丼」などを提供し、季節の行事には、イベントメニューとして、その季節に合った献立を提供した。

## 7 余暇活動の支援（全体行事や地域支援の実施）

昨年度に引き続き緊急事態宣言の発令・不要不急の外出自粛要請・会食の自粛等、コロナ禍の中では、密が基本の行事の実施は開催不可能で、納涼祭・サマーキャンプ・通勤寮、Craft 合同「かつくら祭」も中止とした。正月旅行についても、中止とし、寮内で近隣のGH利用者とともに、お節料理を頂く形に変えた。男子1名が新成人となったが、新型コロナ陽性者が出た時期と重なり、残念ながらお祝いは中止とした。唯一自治会活動として、利用者・職員だけで年度末の3月に餅つきを行った。

## 8 個別支援計画と個別記録の作成

3ヶ月に一度の作成は新型コロナ感染防止対策もあり厳しいものだった。計画相談との連携と、計画相談が立てた支援方針や目標を反映させていく個別支援計画作成が必要になるので、年度当初作成担当者を決めて、サビ管と連携しながら進めていきたい。

## 9 職場定着支援

昨年度、法人内就労移行支援事業所を利用していた3名が一般就労を果たして、現在定着支援を受けている。1名は令和3年12月に就職している。コロナの感染状況が落ち着かず、在宅ワークを要請されたり勤務時間が縮小されたり、出勤停止になる利用者もあり、精神的安定に苦慮している。現状を改善するための職場訪問も、事業所の受入体制が区々なので十分な取り組みが出来ていない。感染状況の落ち着きを待って、個別に職場訪問を計画・実施している。

## 10 地域移行支援

今年度は12名の利用者が地域移行した。(家庭2名含む)GHは1名が連携型・3名が他法人・法人内既設1名・新規開設5名となっている。今年度も2・3年目の利用者を対象にGH見学会を実施している。利用者の中にはGHに対して偏ったイメージや疑問を持っている方もいるので、実際に見て説明を受ける場を作る必要を感じる。個別支援計画の中で、次の生活の場に移行するために何が必要で課題は何か考えて確認した。各関係機関との連絡調整、法人内居住支援調整会議でGH移行希望者を提案し、円滑な地域移行を実現していきたい。

### 1.1 連携型グループホーム(葛の葉)の運営支援

開所5年目を迎え、連携型GHとしての必要な支援内容が明確化されてきた。連携型は通勤寮と同程度の利用期限がある訓練型であり、他の滞在型GHとは差別化・区別化が求められる。今年度は通勤寮に陽性者がでたため、一定日数連携型GHを通勤寮と隔離する措置をとった、幸い陽性者はでなかった。通勤寮以上に次の生活を意識してもらうような支援や関わりが必要で、利用者ミーティングや独自の余暇活動を通じて実現していきたい。

### 1.2 利用者健康管理

#### ○新型コロナウイルス感染防止と陽性者対策

昨年度からの感染拡大により、常に感染者が出たときの対応を念頭に置きながら、支援活動に取り組んで来た。発熱や体調がすぐれない利用者は居室対応としてきた。近隣のクリニックの協力で1年間に2回のワクチン接種を実施することができた。昨年までは奇跡的に感染者を防止できていたが、オミクロン株の大流行により今年1月中旬に高齢者施設に勤務する女性利用者が感染した。職場からの感染と思われた。発熱後すぐPCR検査を受け感染が判明した。すぐ保健室隔離として、コロナ対応支援に切り替えた。当時は感染者10日間の隔離と、他利用者も同一空間での生活から濃厚接触者と捉え居室待機とし、6名の支援者で泊まり込みを実施した。また、利用者職員全員のPCR検査を実施、外回り職員を配置した。初動対応が早かったため、クラスターを防止し10日間の隔離生活対応を終了した。2月に新たに1名が感染したが高熱のために医療機関にて入院対応が実現した。昨年度の感染対応の経験や自治体での対応が整っていたため、対応と対策は比較的スムーズに行ったと判断する。寮内対応する場合の支援者数や外



部対応職員の必要性も認識できた。現在も、消毒の徹底・食堂の椅子を減らし密にならない配慮・全体集合場面の減少化・原則居室内生活の徹底など、感染予防に取り組んでいる。

○7月・12月の年2回健康診断は健診業者の協力もあり実施できた。インフルエンザの予防接種も12月の健診時に実施した。三回目の新型コロナウイルスワクチン接種は前述クリニックの協力により3月に実施した。

#### ○医療機関との連携

事務所内通院カレンダーを活用し、通院者の予約確認を実施、ミーティングで対応が必要な利用者確認した。また食物アレルギーのある利用者一覧を作成し調理員との連携を図った。自立支援医療受給者証の更新時に診断書の提出が必要な利用者が多数いたため、事前依頼を行った。

#### ○服薬管理

現在、事務所の服薬ボックスで管理している利用者は17名おり、うち抗精神薬7名・睡眠薬2名、ADHD治療薬対応1名がいる。

#### ○カウンセリング

カウンセリングは4名が定期的実施。生育歴から来る根深い精神面の課題を抱えている利用者が多いので、支援上の必要性は高い。カウンセラーとの振り返りにより、第三者からの利用者把握観点を考慮することが出来て、利用者支援に活かせることができています。

### 1.3 自治会活動への支援

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大部分の行事が行えず、例年実施している出し物が行えなかった。そのため自治会としては毎月の集まりのみとなってしまった。意見を伝えることを苦手としている利用者もいるので、必要に応じて声かけと内容の整理を行うことで、伝え方の確認ができたと思われる。その中でも、利用者自身が実施したものとして、「ごみの分別」ポスターの作成、利用者が意見を出す「目安箱」の作成・設置がある。スピーチフォーラム（関東地区通勤寮利用者集会）は昨年引き続き中止となった。

### 1.4 利用者預り金管理及び日常の金銭処理

利用者現金袋の管理代行については、個別残高の把握と安全管理を徹底したが、給料振分を敏速に実施する必要があった。振分け者以外の利用者の現金管理については、定期的なチェックが後手にまわることもあった。携帯電話利用料が口座引き落としの利用者が多く、利用料の把握のためにも、通帳記帳は迅速に行う必要がある。預り金の総額は、就労継続B型事業利用者もおり、また一時的に生活保護を受給している利用者もいて、総額は4千5百万円となり、減少傾向となっている。

## 三 利用者の現況

### 1 利用者の状況

○平均年齢は男子は22歳10ヶ月、女子は20歳4ヶ月で、男子は昨年より2歳9ヶ月若くなった。女子も3ヶ月若くなった。全体の平均年齢は22歳2ヶ月と2歳若くなっている。

○利用期間の平均は一昨年が1年5ヶ月・昨年は1年8ヶ月、今年度は昨年同様1年8ヶ月だった。昨年は14名、今年度は12名が地域移行している。連携型GHは通勤寮同様通過型で、通勤寮利用2年

間で3年目に連携型に移行する仕組みである。今年度は1名移行した。移行者の平均利用期間は2年5ヶ月で、昨年より1ヶ月多くなった。

○利用者在籍の平均は、1昨年28、1名、昨年26、5名、今年度は22、2名と大きく減って過去最低となった。令和2年度からの新型コロナ感染防止のために、見学・面接を大幅自粛したことが大きく、入寮希望者の大幅減につながった。結果として、充足率は昨年の76%から65%と11%下がった。入寮希望は減少したが、通勤寮の標準利用期間は変わらないので、移行者は12名となり在籍者の平均数が減少したことになる。

ア 障害の程度（令和4年3月末日現在）

		男	女	計
	愛の手帳3度			
	同4度	10	6	16
	その他	他県2	他県2	4
	計	12	8	20

イ 年齢別構成（令和4年3月末日現在）

	男	女	計
15歳以上20歳未満	2	1	3
20歳以上30歳未満	10	7	17
30歳以上40歳未満			
40歳以上			
計	12	8	20
平均年齢	22歳10月	20歳4月	22歳2月

ウ 利用期間状況（同上）

	男	女	計
1年未満	6	5	11
1年以上2年未満	4	1	5
2年以上3年未満	2	2	4
3年以上			
計	12	8	20
平均	1年6月	1年8月	1年8月

エ 保護者の状況（令和4年3月末）

	父母あり			父母なし		なし	合計
	両親	父のみ	母のみ	兄弟	他		
男	7		5				12

女	2	1	3			2	8
計	9	1	8			2	20

オ 令和3年度利用者在籍状況（当月中）

	男			女			在籍合計
	入寮	移行	在籍	入寮	移行	在籍	
4		1	16			8	24
5			15			8	23
6	1		15	1		8	23
7	2		17		1	8	25
8		4	17			8	25
9		2	14			8	22
10			13			8	21
11			13			8	21
12			13			8	21
1		1	13			9	21
2		1	13		1	8	21
3	1	1	13	1		8	20
合計	4	10	172	2	2	95	267
平均			14.4			7.9	22.3

カ 令和3年度入寮先

	家庭	障害児入所施設	児童養護施設	里親	障害者支援施設	G.H	自活	その他	合計
男	3		1						4
女	2								2
計	5		1						6

キ 令和3年度移行先

	連携型 G.H	G.H	家庭	自活	障害者支援施設	里親	職場寮	その他	合計
男		8	2						10
女	1	1							2
計	1	9	2						12

ク 令和3年度移行者の利用期間

	半年未満	半年～1年	1年～2年	2年～2年半	2年半～3年	3年以上	合計	平均
男	1		2	1	6		10	2年5月
女			1		1		2	2年3月
計	1		3	1	7		12	2年5月

## 2 利用者の就労状況（令和4年3月当初現在）

令和3年度は就労継続支援B型事業所1名以外は、企業就労である。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発出中期間が長く、職場訪問も制限され、また自宅待機期間も多く、厳しい年であった。

平均賃金は3月当初で、男子138,000円で昨年より5,000円増、女子は147,500円で昨年より8,500円減った。最近の賃金の考え方は、最低賃金を基準とする事業所と高卒を基準にするところと2分されてきており、この傾向は特例子会社でも変わらない。新型コロナウイルスまん延防止のための自宅待機期間も賃金保障がない事業所があった。勤務時間が短い利用者は、障害基礎年金等の所得保障がないと、今後の地域移行が困難になる。（毎月決まって支払われる賃金の総額（基準賃金）で算出）

### ア 利用者の賃金形態（企業就労者のみ）

	月給	日給	時給	合計
男	3		8	11
女	5		3	8
計	8		11	19

### イ 社会保険の有無（当初者全員）

	社保	国民健保	なし	生活保護	合計
男	11	1			12
女	8				8
計	19	1			20

### ウ 月額平均賃金（基準額・企業就労者のみ）

	50,000 ～69,999	70,000 ～99,999	100,000 ～149,999	150,000 ～199,999	200,000～	合計
男			8	3		11
女			5	2	1	8
計			13	5	1	19

### エ 職種

職種	男	女	合計
食品加工	1		1
硝子加工			
リネン	1		1
食堂補助	1	2	3
事務補助	5	2	7
清掃	1	1	2
物流	1	1	2
スパー	1		1
介護保険事業所		2	2

就労移行支援事業			
就労継続B型事業	1		1
失業			
合計	12	8	20

#### 四 体験入寮・短期訓練事業

本年度も新型コロナウイルス感染防止の影響が大きく、体験利用者の不安による中断や、まん延防止による延期・キャンセルの場合があった。延期のケースも年度内の調整がつかず、何件かは来年度に持ち越す形となった。また特別支援学校在学中だが、学校長を通さずの申請があったため、見学時に申請方法を改めて伝える必要がある。本年度は入寮者が少なかったが、体験利用者がいると、学校の先輩として良い刺激になる利用者もいる。

##### ○短期訓練事業（特別支援学校卒寮者・在宅者対象）

地域生活の中で自立ができるよう、意識してもらうため、通勤寮で実際の生活を体験していただいた。コロナウィルスの感染拡大のため、利用者は7名で、延べ日数も49日に留まった。ちなみに入寮希望者は4名だった。

##### ○体験入寮事業（特別支援学校生徒対象）

地元特別支援学校進路担当教諭を窓口として、コロナの影響もあり、事前に文書にて健康面の経過観察をお願いするなどして実施した。体験中体調不良で中止の場合が2件あった。年度実績は9名延べ日数90日で昨年度より50日減となった。

見学時に、新型コロナウイルス感染が落ち着いたころ体験したいとの要望も多いため、早めの調整を来年度は実施する予定。この事業は地域貢献及び利用者の確保対策としても極めて重要である。

#### 五 給食

##### 1 衛生管理

○今年度もコロナ禍の中、ほとんど全ての行事等が中止となり、大変な1年だった。その中で、通勤寮では職員1・利用者2名の陽性が明らかとなり濃厚接触感染防止のため給食を一時中止とし、クラスターの発生を防いだ。調理業務は衛生管理の徹底で感染を防止できた。食堂・厨房内の清掃は2ヶ月に1回の定期清掃を実施した。残念ながら食品衛生実務講習会等は中止となった。

## 2 食事支援と献立

○栄養士との献立検討会を月1回行い、利用者の好みを取り入れた献立作成とバランスの良い食事提供を心がけた。月1回の食事会は中止となったため、特別メニュー献立で食事を提供した。

嗜好調査・残滓調査は計画とおり実施した。特に残滓調査では、残食がほとんどないことがわかった。ダイエットが必要な利用者には、その利用者にあった食事を提供した。今後も利用者の健康をサポートできる、安全・安心な食事の提供を心がけていきたい。

## 六 保護者との連携・広報

### ○家族との連絡調整

令和3年度も新型コロナウイルスの感染防止の観点から、家族の来寮や利用者の定期的な帰宅を制限することとなった。特に年末年始の帰宅に関しては、家庭での検温実施を要請した。9月の個別面談、12月の保護者会も中止とした。その代わりに、法人広報誌（原町かわら版）を年4回発行するとともに、身近な通勤寮の話題を提供するため、「葛飾通勤寮ニュースレター」を3回発行した。

### ○通勤寮プログラム体験

特別支援学校生徒さん向けに、利用者が主体となり通勤寮でのプログラム内容を話してもらいより理解を深めてもらうためのプログラム体験に関しても、昨年に続き今年度も中止とした。

## 七 地域関係・防災

### 1 地元町会含めた地域との良好な関係構築

平成29年3月に東掘切地区に新築移転し、地元東掘切町会に加入、災害活動応援協定を結び、町会の消火器を通勤寮駐車場に設置している。地元との交流行事については、7月の子供会行事支援、お祭り参加、町会防災訓練に参加しているが、今年度も、新型コロナ感染防止と緊急事態宣言により、全て中止となった。また地域開放行事として、併設のCraftと共同で「かつくら祭」を開催しているが、集合・密を避ける、まん延防止対策の一環で昨年同様中止とした。

### 2 防災訓練・BCP策定・感染防止対策その他

消防計画では毎月の避難訓練を実施することになっているが、今年度は予定通り実施した。事業所のリスク管理として、通勤寮・奏かつしか・Craft合同で防災委員会を定期的に開催した。台風や地震といった自然災害や事件、新型インフルエンザや新型コロナウイルスなどのまん延、火災、停電など、様々な事象を対象範囲に含め、緊急事態が発生した際に、被害を最小限に抑え事業を継続、もしくはいち早く事業再開ができるように、対策や方法をBCPとしてまとめ、職員に合同説明を行い、重要性を周知している。

特に新型コロナウイルス感染防止対策は多難を極め、初動対応の重要性が明確となった。

今後も定期的に防災委員会を開催し、全職員に共有し、正しい知識と対応を行い、利用者のリスク回避が行えるよう精査していく。

## 八 その他の活動

### 1 苦情解決事業

毎月1回第三者の苦情受付委員（オンブズマン）に来て頂き、利用者からの訴えを聞いていただいていたが、今年度も、新型コロナウイルス感染防止のために、定期的な訪問が不可能となり、実現できなかった。支援担当者は利用者の訴えに丁寧に耳をかたむけ、苦情受付窓口への苦情案件はなかった。

### 2 利用者への虐待防止対策

虐待防止対応規定により、新たに管理会議構成員による虐待防止委員会を開催した。また指導会にて必要な情報提供をおこなった。虐待防止職員セルフチェックシートを配布し啓蒙している。支援員を対象としてリスクマネジメントに関する内部研修を実施しているが、外部研修はリモートのみとなり、派遣できなかった。内部研修として虐待防止研修を支援員会議の中で開催した。

### 3 福祉サービス第三者評価

年度後半の訪問調査の段階で新型コロナウイルス陽性者が出たため、調査を一時延期したが、令和3年度はなんとか実施できた。評価機関は（株）医療福祉経営研究所に依頼した。

前回の指摘事項である①水害対策も含めたためた PCB（事業継続計画）の整理②キャリアパスに示された、スキルや知識を習得するため、職員一人一人の個別育成計画の策定。③事業所の経営を担う人材育成に注力していくことについては、一定程度前進しているが、新たに改善がのぞまれる点として

- ① 運営上必要な関係規定をより閲覧しやすいように整理すること
- ② 次世代の人材育成に向けた育成制度の一層の運用と制度の浸透をはかること
- ③ 継続して地域との関わりを深めていくべく取り組みを継続していくこと

以上3点について課題としてあげて頂いた。

### 4 個人情報の保護

個人情報保護規定に基づき、個人情報の保護に努めるほか、利用者の必要な個人情報の提供については、入寮時に情報提供同意書を全利用者から頂き、対応している。

### 5 リスクマネジメントに関する取組

今年度のヒヤリハット及び事故報告は、金銭管理に関する報告2件・物品紛失が2件投薬誤配置3件、書類提出申請の遅れ1件、食物アレルギーに関するもの1件だった。指導会において毎回議題として採り上げ報告。原因究明と対策について討議している。

### 6 職員の支援力と連携強化のための取り組み

勉強と連携強化の場として、支援員会議を適宜開催した。虐待防止法・権利擁護について研修した。

## 九 職員状況

## 1 健康管理

夜勤担当職員は年2回、日勤職員は年1回健康診断を義務づけ実施した。再検査を指摘された場合の受診の有無について、徹底するよう指導した。

## 2 メンタルヘルス・ストレスチェック等の実施

法人内安全衛生委員会に担当者を派遣し、メンタルヘルスについての情報を共有している。法令により今年度第6回目のストレスチェックを実施した。昨年度に続き緊急事態宣言・まん延防止対策の発出、新型コロナウイルス感染防止のための濃厚接触対策、利用者の感染防止対策・居室隔離等のための2度にわたる泊まり込み体制の確立等、支援現場のストレスは昨年同様極めて高かった。

## 3 有休休暇・新型コロナウイルス感染防止特別休暇の取得など

支援職員の有休取得については、新型コロナウイルス感染防止対応のための夜勤の増加や職員の特別休暇もあって、昨年より増えている。支援職員の有休取得の平均日数は12日となっている。令和2年4月より運営法人としては「非常事態宣言」を発出し、フェーズ7までの特別措置を令和4年6月まで継続予定で、手当の増額を含めた特別休暇の適用拡大を図り、利用者支援の充実に努めている。

## 4 研修・業界団体との連携・実習生の受入等

### ア 実習生の受け入れ

今年度はコロナ禍の中でも要望が強く、福祉系大学から3名を受け入れた。支援員の負担は増すが、利用者にとっても良い刺激となる。受け入れにあたっては、事前の感染症検査・PCR検査を要請した。

### イ 他機関とのネットワーク及び職員派遣

地元関係機関との連携・関係団体への職員派遣については、東京都社会福祉協議会・東京都発達障害支援協会・東京都生活サポート協会・葛飾特別支援学校運営協議会・足立区地域支援協議会・墨田区障害者審査会へ委員を派遣している。

### ウ 外部・自主研修への参加

#### ○ 外部研修

新型コロナウイルス感染防止・緊急事態宣言により、昨年に続き、従来型の集合・対面形式の研修はほぼ中止となった。オンラインによるリモート形式の研修が大部分を占めた。

てんかん協会セミナー		1名	(リモート参加)
東京都社会福祉協議会	新入職員研修	2名	同
同	リーダー研修	1名	同
同	虐待防止研修	1名	同
同	地域支援部会研修	1名	同
雇用促進協会	職業リハビリテーション研修	2名	同
日本知的障害者福祉協会	全国研修	1名	同

#### ○ 系統的な人材育成計画に伴う法人内部研修

新任研修	2名	通年実施
勤続3年目フォローアップ研修	1名	
人事考課制度実施に伴う研修	2名	定期的に実施



備考 入寮・移行先寮一覧

(昭和 52 (1977) 年 10 月 1 日—令和 4 年 (2022) 年 3 月 31 日現在)

入 寮 先	人 数	移 行 先	人 数	移 行 時 就 労 状 況					
				一般	福祉	無			
家 庭	3 2 3	連携型GH	8	8					
障害児入所施設	6 5	G H	3 2 0	3 1 1		8		1	
障害者支援施設	4 8	家 庭	1 3 2	7 1		2 8		3 3	
児童養護施設	5 5	単身生活	1 4	9		2		3	
授産施設	3	職 場 寮	4	4					
一時保護	7	障害者施設	4 0					4 0	
G H	1 5	授産施設	1			1			
職 場 寮	9	救護施設	1					1	
単身生活	9	精神病院	5					5	
精神病院	5	矯正施設	1					1	
矯正施設	3								
その他	5	その他	2					2	
合 計	5 4 7		5 2 8	一般 4 0 3	福祉 3 9	無 8 6			

その他内訳 入寮5 (自衛隊・他通勤寮2・生活保護施設・里親)  
 移行2 (死亡・里親)

## 奏かつしか 令和3年度事業実績報告

### はじめに

平成29年に「葛の葉」を立ち上げ、「ことの葉」「ひと葉」「ふた葉」に続き、令和3年度8月には、「おーる」「ますと」を立ち上げ、奏かつしかとしては、6か所のグループホーム運営となった。定員は計20名となる。

葛飾通勤寮からの卒寮生の受け入れの場として機能している。

東堀切地区にも馴染み、信頼を得て、町会の方たちから、物件をお借りすることもできた。今後も、東堀切町会に理解を得ながら、グループホームの開設をしていかなければならないが、職員数との兼ね合いが今後の課題となるだろう。

今年度も新型コロナウイルスに翻弄され、利用者が楽しみにしている行事や食事会等が中止となってしまった。実際にコロナ感染者も出て、当該寮に関してはロックダウンをせざるを得なかった。

### ◎利用者状況

#### 異性関係について

通勤寮から、若い利用者を受け入れるため、今年度は異性関係での課題が目立った。SNSの出会い系サイトに登録し、見知らぬ男性に会いに行くことや体の関係を持つこと等の女性利用者が目立った。

夜勤者がいない日に関しては、男女の寮が夜中にコンビニに集まり、朝方まで遊んでいたことも判明した。さらに、女性利用者が男性利用者を、女性寮に入れ込むということもあった。

通勤寮から、携帯の使い方、SNSの使い方、怖さ、異性との距離感については性教育や教養の時間で学んできたが、目の前の楽しさに自身の気持ちと行動を抑えられない利用者が多い。

各寮で、性教育を含むミーティング等を実施し、利用者の気持ちに寄り添いながらも善悪の判断がつけられるように支援してきた。

今後も継続的課題となっていこう。

#### 都会で生活する難しさ

通勤寮時代から、異性関係に課題のあった利用者に関しては、夜勤寮で支援してきた。精神的不安定と、異性関係課題、SNS依存もあり、他利用者を巻き込んだの問題が頻発した。担当ワーカーや計画相談も含め、何度も話し合った結果、茨城のグループホームでの生活

を決め、12月に移行となった。

## 就労支援

比較的就労は落ち着いた利用者が多い。頻繁な職場訪問は必要なかったが、日々職場との連携や、大ごとになる前に定期的な職場訪問を実施してきた。

## 健康管理

年一回の通勤寮と合同の健康診断を実施。結果によっては通院に繋げるようにしている。コロナウイルスの予防接種も三回実施することができた。

肥満に対する意識付けが難しく、調理員と連携をとりながら食事管理をしてきた。

自分で購入する休日などは、好きな物だけを食べ、体重増加、さらにその他の内部疾患につながり、服薬している利用者もいる。

各々にあったダイエット方法を検討し、実施しているが、結果につながってはいず、難しい課題となっている。

## 余暇支援

コロナウイルス蔓延のため、国や都の定めるものに則って、グループホームでも外出等の自粛を実施。

予定していた食事会や行事がほぼ中止。蔓延防止措置等が解けている間を見計らって食事会などを実施。

男女が健全に交われる行事の場が設けられなかったことも、異性への課題につながったと思われる。

行事以外でも、日々の食事や飾りつけなどで、季節を感じてもらえるような、楽しい企画を利用者と話し合ってやっていけるようにしたい。

## 身辺処理と建物維持

グループホーム建物全体の清潔さを保つため、月一回の大掃除日を設けた。利用者の各居室は、自身で掃除してもらっているが、整理整頓の観点がもてない利用者もいるため、一緒にやることや代行も実施。

建物の老朽化もあり、水回りの修理や、フローリングのワックスがけを業者をお願いした。

## 個別支援計画

毎回利用者に聞取りを実施しながら作成。利用者支援のベースとなるため、丁寧な聞取り

が必要。個別支援計画をベースにしたケース検討会を実施予定だったができなかった。作成に関しては、漏れのないように実施していきたい。

防災・避難訓練・BCP計画（感染予防も含む）

年二回の避難訓練を実施。防災館を利用した。内容としては、災害時通勤寮までの経路や危険予測、備品の確認、避難グッズの確認等。

通勤寮、クラフトと連携し、防災委員会を開き、BCP計画を作成。合同で備品の確認、防災監視盤の確認、備蓄食料の試食会を実施した。

新型コロナを含む感染対策もBCPに盛り込んだ。

一寮でコロナ罹患者がでたが、法人のフェーズに則て、初動対応をしたので、他利用者にはうつらなかった。ただ、濃厚接触者には該当するので、寮自体をロックダウンせざるを得ない状況だった。

ヒヤリハット・虐待防止

月二回の会議日にヒヤリハット・虐待防止等の報告をしあい、共有してきた。

虐待防止に関しては、東社協の研修を受け、全職員に向けて研修会を実施した。

第三者評価実施

令和3年度中に開所してから二回目の第三者評価を実施した。

最後に

利用者の成長を見極める多くの利用者の最終的な目標は、一人暮らしや結婚である。

できる力を伸ばすため、地域の方の有償ボランティアで調理教室を月一回実施。

一人暮らしに必要なことは何かを、具体的にするために勉強会をした。

一人の利用者は、無事に一人暮らしにたどり着けることができた。

また、結婚を意識している利用者に関しては、今後同棲等を得て、結婚の取り組みを検討している。

8月に立ち上げた「ますと」に関しては、男性2名の寮だが、一人暮らしをしたいという希望があったため、できるだけ今まで学んできたことを生かせるように、職員の配置を薄くし、自分たちでできる力を増やせるような位置づけにした。

今後も、利用者の希望に併せられるような、寮の開設を視野にいれていく必要がある。

以上

## 令和3年度 Craft（クラフト）事業報告

### 1. 全体

Craft の事業所開始から5年が経過し、利用者数も25名となり運営的にもやっと安定してきた兆しではあるが、予見できない事由として新型コロナウイルスによる弊害が、去年度に引き続き猛威を振るい、ベーカリーカフェ「Viser Polaire」のイートインの制限による収益減、また日中活動の短縮や休所、行事の中止などを余儀なくされ多大な影響を与える一年となった。

事業所の労働環境改善の一環として、職員会議及び支援会議を月予定として、定期的に日中時間内に行った。業務軽減、仕事能率向上やメンタルヘルス対策として有効の効果を示している。その反面、営業日も制限され収益に影響も与えた。

感染拡大防止に努めながらも、作業についてはタスカルカード運用して「見える化」そして「振り返る活動」を継続して取り入れていくことで、自分にどのような知識・技能が身に付き、どのような思考力、判断力が身についたかを具体的に確認することができるようになってきている。適宜行ってきた教養講座、リラクゼーションを目的としたヨガなどは、心豊かに楽しくすごせる必要な知識を学ぶ取り組みとなった。

一般企業就労については一名がAIG ハーモニー株式会社に就職が決まり、今まで企業就労に巣立っていった利用者含め、職場訪問や定期的な話し合いの場を設定する事により、アフターフォローを充実させ就労定着に結びついている。

一方で、事業所内における重度高齢化等に伴う多様な利用者ニーズに対応する為、個々に応じた、きめ細かな支援が必要となり、多機能型として生活介護事業所を開設する運びとなった。

### 2. 利用者支援重点目標

今年度も引き続き、タスカルカードを軸に作業の「見える化」し、進捗状況の把握や達成感を感じられる様にした。

グループ独自のルールとタスカルカード運営方法をブラッシュアップさせ、より利用者にはわかりやすく提示することができ、利用者のモチベーションを維持するように努めた。今日の自分はどれくらい作業が出来るか、時間を意識し、自分の許容範囲を考えながら、作業について責任を持ち一人一人が取り組んでいた。

月1回の表彰では、達成感や前向きに取り組む姿勢への意欲につながった。終礼では、引き続き美点凝視をしたことを伝え合い、お互いの存在を認め合う環境を設けた。

月1回程度、Craft ころえについて考える時間を設け、Craft のチーム力を高められるように取り組んだ。また、外部講師を隔月で招き、ビジネスマナー講座を実施。講座で習った姿勢や作法等を朝礼・振り返り時に取り入れ、習慣化を目指し定着しつつある。

個別では、個別支援計画を反映し、目標に向けてのチェックシートを作成し、毎日目標を意識して取り組めるように工夫を行った。

振り返りの時間では、利用者との会話を大切し気持ちの把握や相談を受けることができた。

利用者の健康維持・リラクゼーションや協調性を養う為に行う月 1 回のヨガ、ミュージック・ケアの時間では、季節の行事を企画したり、利用者からのやりたいことを募りダンスをしたり、利用者からの積極的な行動もみられた。

毎日のラジオ体操も、楽しく取り入れられるようスタンプカードに工夫をした。

1名の利用者は、長期入院中である。1名の利用者は、GH職員とも連携し通所につなげていたが、夏頃から通所に結びつかず現在長期欠席中である。

### 3. 収支報告

年間売り上げ：10,921,655円（3/31） 年間売上目標 1470万円

内訳：パン：9,109,502円 喫茶：332,985円 清掃 1,489,168円

### 4. 喫茶・販売

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言発令などでイートインの中止を余儀なくされるケースが相次ぎ、売上としては昨年よりも減少している。昨年に比べると、とても苦しい状況ではあったが、土曜日はイートインがなくても40人前後のお客様が訪れている日もあった。

GWは5/1～3に4周年記念感謝祭を実施し、沢山のお客様にお越しいただけた。今年度の外部販売は新型コロナウイルスの影響によりほとんど中止となった。体育館を含む屋内でのイベントも全て自粛となった。季節ごとにパンセットを販売したり、じゃんけん大会やお菓子のプチプレゼントなど店舗内や正面玄関で簡単に実施できるミニイベントを引き続き実施した。また、8月より月1回、葛飾元気野菜の直売所から仕入れた野菜の販売も行い、集客を図った。地域に徐々に浸透している様子で、販売日を心待ちにしているお客様もいらっしやった。

全国のお客様に当店を知ってもらうために、「rebake」のサイトにてパンセットの通信販売を昨年に引き続き行った。今年度は、従来のパンセットに加え、ドイツパンなどを入れたパンセットやクリスマスの時期にはシュトーレンが入ったパンセットの販売を行った。今年度も北は青森県、南は沖縄県まで幅広い地域からたくさんのお客様に注文いただいた。

作業面では、引き続きタスカルカードを導入し、作業に見通しを立てるとともに、利用者自ら自分がやるべき作業を確認して、仕事に取り組んでもらった。日々の積み重ねにより、利用者自ら率先して作業の準備や袋詰め、接客を行えるようになった。利用者同士お互いに声を掛け合い、思いやりをもって作業ができるようになった。

イートイン中止の時期が長く、接客業務の機会が少なくなってしまうが、利用者たちと日々コミュニケーションを交わし、接客や作業のローテーションについての話し合いをする機会も多くなった。接客用語や言葉遣いなどお客様に対するマナーに関しても、朝礼や

作業内で適宜利用者へ伝え、実践してもらった。イトインが始める前には接客講習を行い、ドリンク運びの練習やお客様への声掛けを練習する時間を設けた。接客用語も昨年よりかなり意識して取り組むことができた。

お客様問い合わせ事項として、パンセットの入れ忘れが 2 件、パンの品質について(焼き菓子がしけている)が 1 件、間違えたパンを購入してしまった件が 1 件、金額を間違えてお会計を行ったことが 1 件あった。事故報告として施錠忘れが 2 件、お客様からの苦情が 1 件あった。それぞれ、原因を探り対策を講じた。

#### イベント

5/1(木)～3(土)：4周年記念感謝祭

6/23(水)～7/7(火)：七夕イベント(抽選会)

7/27(火)～8/28(土)：夏休みスタンプラリー

8/21(土)：ドリンク無料券サービスデー

8/29(土)：夏休みじゃんけん大会

10/26(火)～30(土)：ハロウィンイベント(お菓子プレゼント)

1/6(木)～8(土)：新春初売り(福袋販売)

2/8(火)～13(土)：バレンタインイベント(チョコレートプレゼント、パンセット販売)

3/24(木)～4/30(土)：春のランチボックス販売

#### 元気野菜販売日

8/7(土)、10/9(土)、11/13(土)、12/18(土)、1/15(土)、2/12(土)、3/19(土)

#### 外部販売

10/21(木)：くすのき祭(売上：7,030円)

#### 5. パン製造

本年度も新型コロナウイルス感染拡大予防のためイトインの営業が制限される中、テイクアウトメニューの強化を図り売り上げの向上を目指した。また来年度に向けて季節ごとのイベントに関連したランチBOX販売の経験を積んでいった。

新しく堀切学童様と取引し、月に1回おやつ用の菓子パン各種の販売をはじめた。その後1件の学童の取引先も増え今後に向けて販売先を拡張するきっかけを作れた。その他の取引先として月に1回子ども食堂と連携して店舗で売れ残ったパンの引き取りを行い、廃棄予定のパンの削減できるようになった。

月1回の志賀シェフの技術指導を受け、技術的に高いレベルのパンに挑戦した。そのため高級嗜好のお客様に向けたパンも販売ができるようになった。ネット注文である rebake(リベイク)のパンメニューに新たなセットとして加えることによってお客様の良い反応も頂いた。新規のお客さまや店舗に直接来店が難しい遠方のお客様にパンを購入してもらい機会が増えた。急速冷凍機の活用で作業効率があがった。

その他、生地にあった食パン型を購入し品質向上と作業効率の促進を行っていく事とした。店舗商品についても様々な年齢層のお客様のニーズに応えられるようにスタッフや利用者の意見を取り入れ商品開発を意欲的に行った。

新たな試みや技術、商品に取り組んだ結果、人員に対して製造量が許容範囲を超えてしまい作業が滞ってしまう面があったため、各職員の作業を書面化して工房に掲示する見える化を行った。これによって人員に対して適切な作業が行えるようになり改善できた。

上記の要因から各職員、利用者のスキルアップが必須であったため、職員のポジションのローテーションを頻繁に行いスキル強化と作業の効率化を図った。利用者の実習の受け入れも積極的に行いスキルアップと人員の確保に努めた。

技術的な向上と並行して、食品（販売商品）の安全性を保つために HACCP（ハサップ）による衛生管理を行いスタッフ全員の衛生面の見える化と意識付けの強化を行った。HACCP の管理に伴い衛生に関する講習会を行い、職員と利用者の教育する機会をえた。この講習会も次年度に継続して行える機会を作ることができた。

本年度の食品事故：保育園に納品したレーズンパンに異物（レーズンの枝）が混入。報告書を上げ再発防止策を講じた。レーズン納品業者の変更を行った。

4月に2人メンバーが入れ替わった。作業経験や能力は様々だったが、ルセットや各自メモを活用し「分からない事は職員に確認する」「自分から職員に声をかける」という事を意識して作業してもらい、品質の良い商品を提供できるよう努めた。

季節ごとに内容が変わるトッピングなども、ルセットを見ながら職員が個別に指導を行い、毎日繰り返し作業を行う事で商品を作り上げていくことが出来た。

工房内でのルールを守ることを意識づけし、お互いに協力して気持ちよく、安全に作業が出来る環境作りを行った。

終礼や振り返りで、1日の良かったことをたくさん伝えて労う事で、達成感を持ち、意欲の維持向上が出来た。

就職を意識した上での言葉遣いや清潔保持、清掃を丁寧に行う事の大切さなどを意識してもらえよう、作業指導を丁寧に行った。

## 6. 清掃活動、受注作業

〈年間売上〉

実績：1,489,168円（3/31現在） 目標：1,908,000円（達成度：78.05%）

今年度の目標としていた『自分で出来る事は自分で行う。』という部分では、利用者の『気付き』を促す為、以前ならば職員から声を掛けていた場面で、敢えて様子見をし、自身で気付く場面設定を行った。また、自身での気付きが苦手な利用者に対しては、その行動に対し「どのように説明をしたでしょうか？」等、確認を行い気付きの促しを行った。その結果、徐々にではあるが色々な場面で自分から職員に声掛けを行う事や、自身で行動する事が増えていった。

活動では、年度途中から作業の割り振りや活動スケジュールの効率化を考え、上層階の清掃や配達・ポストイングを多く担うグループと、低層階の清掃や受注作業を多く担うグ



ループに分け、職員の支援効率も含め仕組み作りを行った。また、配達業務・ポストイン  
グ業務の受注作業において、作業効率や受注量のアップを目的とし、自転車の使用を開始  
した。現在、安全に留意しながら活用でき、目的達成に寄与している。

他にも、タスカルカードのフォーマットの整理、昨年度導入したチェックシート・道具  
カードの整備等、社会状況も相まっての除菌作業の導入等もあり、既存の仕組みをブラッ  
シュアップし、より利用者が活動をしやすい仕組み作りを行った。また、利用者が実際  
にどの様に仕事を進めたり、活動を行っていたりするかを確認する為、一人ひとり仕事の様  
子を職員が見学させて貰い、『正しい手順で仕事が進められているか？正しく道具を使え  
ているか？よりよい仕事の進め方の確認等』実施し、各々とフィードバックを行っている。  
入所当初に各利用者には仕事の説明、手順の説明を行っているが、仕事に慣れてくるに当  
たり、自己流で仕事を進めたり、時間管理の意識が薄くなったり等見られていた為、効果  
的な取り組みとなった。

今年度も年度途中で随時新規利用者が入所し、清掃班の利用者数も増加している為、引  
き続き作業量の充足が維持出来る様に、軽作業も含め作業の切り出し、各利用者の体調や  
状態に合わせての作業提供等、環境設定を行った。

利用者支援では引き続き個別支援計画をベースに、利用者個々の特性に合わせての活動  
の提供や、個別取り組みのチェックシートの活用、希望する将来像に対しての活動提供を  
行った。また、定期的に利用者と対話する機会を持ち、年度末の3月に清掃班の利用者全  
員に対してアンケートを実施し、今年度の活動状況や、達成状況、次年度に向けての考え  
等の聞き取りを行い、新年度の活動に対する参考とさせて貰った。

受注作業に関しては、新型コロナウイルス感染症による作業終了となった受注作業があ  
った一方、昨年7月に新規でポストイング業務を受注。同じく7月にスポットで葛飾区  
共同受注からの作業を受注し、売上アップを図った。

#### 令和3年度受注作業状況

清水ハトメ⇒ハトメ部品の組み上げ、箱詰め（継続受注）

ポストウェイ⇒ポストイング業務（令和3年7月開始）

葛飾区共同受注⇒ムック本の検品及び、内包物の入れ替え作業（令和3年7月）

日本ネスレ⇒通販商品の宅配『MACHI ECO 便』（令和4年2月終了）

#### 本年度受注作業事故報告

ポストウェイ

⇒令和3年10月にケーブルテレビ番組表を投函した際の投函方法に関して、当該お客様  
より問い合わせ。次回からの投函方法の確認、お客様との直接のやり取りで投函場所の  
確認を行い対応。

日本ネスレ

⇒配達物を誤配達して、お客様より配達状況の問い合わせ。配達状況を説明させて頂き、  
以後十分に注意して配達する事を確認させて頂く。

置き配を行う場合、置き配状況の写真を撮り、何かあった際の対応の情報として活用し  
ていく事を確認。

次年度は、新入所者にとって Craft のルールや活動を覚えたり慣れたりする場として、  
『衛生面の意識や、仕事に対する姿勢の意識付け』をしっかりと取り組める仕組みを構築  
する。また、引き続き利用者個々の自活力の向上を重点目標として取り組んでいきたい。

また売上確保として、終了となった受注作業に代わる新規の受注作業の獲得や既存の受注作業の受注量増加を目指していく。

## 7. 行事計画

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、外部行事は通勤寮との合同行事も含め中止となった。

5月1日・2日・3日に Viser Polaire 4周年記念感謝祭を行った。

ヨガ教室については毎月実施し、12月・3月にヨガ講師とともに季節のイベントとして「クリスマス会」・「お花見ヨガ」をそれぞれ実施した。

12月の Craft 納会は規模を縮小して実施した。

## 8. 一般企業就労支援活動

今年度は令和3年4月に新たに1名の就職者を送り出す事ができ、前年度一般企業就労した利用者と合わせて利用者2名のアフターフォロー（定着支援）が新しく加わった。両名とも法人の GH 利用者であった為、GH 職員と就労前から情報交換や連携を図り、就労後に予想される状況や生活支援の情報収集、職場との関係性の構築や連携等、新たに様々な状況の対応があり、定着支援における事業所としての経験値が得られた。また、職場訪問や本人面談も定期的に行い、両名とも1年を超える就労継続が出来ている。

また、今年度も葛飾区障害者就労支援センター主催の『区役所実習』を活用し、外部実習を経験していく場を設定した。

フォレストの就労担当職員との情報交換会も継続して行い、就労支援・定着支援に関する情報交換や、求人情報の共有等、今年度も有益な連携が図れた。また、コロナ禍で休止していたハローワーク墨田の就労支援担当者との打ち合わせは、社会状況に左右される中、今年度は1回開催する事が出来た。

## 実績

- 4月
  - ・AIG ハーモニー株式会社入社 (T・M さん)
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (M・S さん)
  - ・アフターフォロー本人面談実施 (T・M さん)
- 5月
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (M・S さん)
  - ・アフターフォロー本人面談実施 (T・M さん)
- 6月
  - ・区役所実習参加 (S・I さん)
  - ・区役所実習参加 (T・K さん)
  - ・アフターフォロー本人面談実施 (M・S さん)
- 7月
  - ・区役所実習参加 (S・I さん)
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (M・S さん)
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (T・M さん)
- 8月
  - ・区役所実習参加 (S・I さん)
  - ・アフターフォロー本人面談実施 (M・S さん)
- 9月
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (M・S さん)
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (T・M さん)
  - ・職場開拓 ラスクみらい株式会社会社説明会参加
- 10月
  - ・区役所実習参加 (S・I さん)
  - ・区役所実習参加 (T・K さん)

- ・職場開拓
- ・アフターフォロー職場訪問実施 (M・S さん)
- 1 1 月
  - ・区役所実習参加 (T・K さん)
  - ・職場開拓 株式会社オンデーズ会社説明会参加  
株式会社マスダスタッフ会社説明会参加
  - ・アフターフォロー職場訪問実施 (M・S さん)
- 1 2 月
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (T・M さん)
- 1 月
  - ・職場開拓 イムス葛飾総合病院見学
  - ・アフターフォロー職場訪問実施 (M・S さん)
- 2 月
  - ・イムス東京葛飾総合病院栄養科 求人応募 (S・Y さん)
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (M・S さん)
  - ・アフターフォロー本人面談実施 (T・M さん)
- 3 月
  - ・イムス東京葛飾総合病院栄養科 面接 (S・Y さん)
  - ・東京しごと財団主催職場体験実習面接会参加  
(ベイク・ド・ナチュレ株式会社) (S・Y さん)
  - ・東京しごと財団委託訓練申込 (花王ピオニー株式会社) (S・I さん)
  - ・東京しごと財団主催職場体験実習面接会参加 (東急ウェルネス株式会社) (S・I さん)
  - ・東京しごと財団主催職場体験実習面接会参加  
(アート引越センター株式会社) (M・A さん)
  - ・東京しごと財団主催職場体験実習面接会 (アポロビルサービス株式会社) (T・K さん)
  - ・アフターフォロー本人面談、職場訪問実施 (M・S さん)

## 9. 生活支援

- ・普段からの作業を通して挨拶や返事、身だしなみを整えるなどのビジネスマナーを習得の支援を行った。また、外部講師をお呼びし知識の定着を図った。
- ・グループホームや家庭と連携し、利用者の健康や生活状況の把握を行っていった。

## 10. 健康管理

- ・月1回検便(江東微生物研究所)実施し、問題となる菌が検出されたことは無かった。
- ・5月に災害時用予備薬預かり(年1回入れ替え)と、頓用薬、臨時処方薬などは必要に応じて管理を行った。
- ・7月に利用者健康診断(通勤寮と合同)、入院中の1名以外全員受けた。
- ・コロナワクチン接種、11月に2回目、3月に3回目実施(希望者のみ)。
- ・健康維持を目的として、朝礼前のラジオ体操、月1回講師を招いてのヨガの時間を設けた。ヨガの時間は利用者に好評で楽しみに参加できている人が多く、始めた当初に比べ全体的に体の動きがスムーズになった印象がある。来年度はヨガの時間の回数を増やしたり、年代や体力等を考慮したグループ分けも行っていく。

・糖尿病・肥満の利用者に対し、振り返りの時間を利用してストレッチを中心に体操を行い健康維持の補助を行った。(本人の意思を尊重して行っているため、痛みの訴えがある時は中止することも多い)

・朝礼での衛生チェックや手洗いへの取り組みを丁寧に行った。

### 1 1. 家族・グループホームとの連携

利用者の夢や希望を実現するためには家族やグループホーム職員との連携が不可欠である。「顔が見える関係」に主眼を置き、互いに連絡を取り合える良好な関係を築く事に努め、日々の連絡帳の活用、必要に応じて電話連絡や、ケース会議、個別支援計画面談の同席等、情報共有や支援の統一を行った。

### 1 2. 防災計画

防災活動に関して

毎月防火状況自主点検表の作成を行い、令和3年3月に避難訓練を実施。また、葛飾通勤寮・奏かつしか・Craft 職員合同の防災委員会を実施し、BCP 計画策定及び修正を行った。令和3年9月には職員合同説明会・研修として、BCP 計画の内容説明、防災設備の使用に関する研修、防災備蓄品の確認を行った。

また、新型コロナウイルス感染症に関する対応や、細菌に対する対応マニュアルの策定も行い、有事に備え被害を最小限に抑えての事業継続、いち早く事業再開が出来る様に準備を進めた。

次年度も定期的に委員会を開催し、全利用者職員に共有。有事に備えて正しい知識の習得と冷静な対応が出来る様に訓練内容やBCP 計画のブラッシュアップを図っていく。

建物保守に関して

女子浴室排水管の詰まり、男性浴槽の排水弁の破損、通勤寮男性トイレ便座の破損、体育館内排煙窓のワイヤー故障等、清掃活動の範囲内や活動範囲内で建物の不具合が多数発生。都度葛飾通勤寮と情報共有を行い、建設施工会社及び修理業者に依頼し修繕を行った。

経年劣化とは考えづらい不具合も多く、引き続き建物全体の保守管理には注視が必要とされる。

### 1 3. 職員研修

・BCP 内部研修	9月2日	全職員向け
・SDGs×福祉	11月10日	玉木
・わたしたちの仕事を語ろう!	1月29日	玉木
・権利擁護、虐待防止研修	2月10日	全職員向け
・人間関係におけるストレスマネジメント	3月4日	中島
・ライフキャリアのすすめ	3月19日	井上

## 2021年度 かつしかセンター 事業報告

2021年度3月末実績 定員264名 現員248名  
ユニット数51カ所サテライト2カ所

### 入寮

- ・自宅から1名

### 退寮

- ・他事業所GHへ1名
- ・単身生活や自宅復帰4名
- ・死亡3名（それぞれが持病の悪化によるもの）

### GH

- ・欠員の解消が出来なかった。
- ・利用者の高齢化や重度化に対して、通所先の協力やヘルパーを独自に配置しているおかげで何とか支援出来ている。
- ・第一原町成年寮A/B、第一別館、はなみずきを廃寮した。
- ・るりはなA/B、なずなを開所した。

### 余暇

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、十分には行えなかった。

### 健康

- ・インフルエンザ予防接種と新型コロナワクチン接種を実施した。
- ・生活習慣病（高血圧や糖尿病）に罹る利用者が年々増加している。食事面や運動等の対処も必要となり、宅配弁当の利用やウォーキング等を実施した。
- ・複数の重篤な病気を抱えた利用者が増え、医療機関との連携や生活の場所の見直し等の対応に苦慮した。

### その他

- ・居室清掃については、やり切れていない部分の内、共有部分は奥戸福祉館へ委託、各居室は清掃専門職員や担当職員で行った。
- ・職員向け外部研修は、常勤職員の1/4程度の職員が受けられた。
- ・各ユニット年2回の防災訓練を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症により、ロックダウンを行った。利用者の状況やGHの形態等に応じてその都度対応を変えねばならなかった。陽性者を隔離する場所の確保とその支援に苦慮した。

以上

1, 支援方針

すべてを新型コロナウイルスのせいにはせず、可能な限り、代替案を考える。  
コロナ後の生活を想像し、準備を始める。

《支援上、大切にすること》

- (1) 幸せの形は十人十色。個人としっかり向き合い、未来につながる支援をします。
- (2) ライフステージに合わせた支援を提供します。
- (3) 利用者も職員も人生を謳歌し、幸せになります。
- (4) 安心、安全、清潔な環境を作ります。
- (5) 地域に愛されるグループホームを目指します。
- (6) 職員間で情報を共有し、チーム一丸となって働きます。

新型コロナウイルス陽性者を利用者、職員ともに多く出してしまい、組織運営の脆弱性を感じた。支援者の新型コロナウイルスに対する価値観の違い、メンタルへのアプローチの難しさを感じる1年にもなった。利用者の余暇活動が、コロナ禍を理由にした検討なき消極的支援が散見され、あらためて、知的障害者の人権について考えさせられた。

2, 今年度取り組む課題

(1) 個別支援計画の充実

- ① 軽度障害者の個別支援計画の書式を新しくします。
- ② コロナ後を見据えた個別支援計画を作成します。

自分の意思がはっきり確認できる利用者に対して、新しい個別支援計画の書式を使用した。特に、アセスメントと総括に際し、有効な書式であった。コロナ後を意識した計画も作られ、来年度以降の支援に向けて有効な意識付けになっている。

(2) 洪水に対する、防災対策を行います。

- ① 洪水後のBCP(事業継続計画)を作成します。
- ② 他法人・他事業所間との災害後の協力体制を模索します。

実施できていない。広域での対策が必要であり、引き続き検討していく。洪水後の対策は、策定がとても難しい。

(3) 支援者の労働環境を整え、事業所間の協力体制を作ります

- ① 介護人確保が困難のため、緊急一時保護の将来について、葛飾区と交渉します。
- ② シェイン従たる事業所「つむぎ」と行動援護事業所「ドロップ」と連携し、具体的な支援体制を作ります。
- ③ 各グループ間で、兼務・応援体制を作り、勤務に反映させます。

今年度で、緊急一時保護事業が終了となった。高齢化や行動障害がある利用者対策及び支援者の労働環境の改善するために、スペースの有効活用を検討する。「つむぎ」との連携は、1年を通して実施できたが、「ドロップ」との連携は、組織的には出来なかった。兼務応援体制は、なぎさ、みさき両チームの乗り入れを実施している。来年度も、引き続き、連携協力体制を模索していく。

(4) サービス管理責任者会議の機能を強化します(東京都、法人を下支えする)。

- ① 主任業務の明確にして、次の人材を育てます。  
<主任・チームリーダー業務(サービス管理責任者業務)>
  - 1) 個別支援・個別会計・食費・光熱水費・日用品費の統括
  - 2) 個別支援計画の作成(統括として)
  - 3) 勤務表の作成、別支援チームとの連絡調整
  - 4) 対外機関(職場・日中活動の場・医療機関・実施機関他)との調整(統括として)
  - 5) 家族との調整(統括として)
  - 6) 支援スタッフへ指導・助言
- ② サビ管研修、GH運営協議会研修にファシリテーターを派遣します。
- ③ 都コーディネーター事業の事務局機能及びコーディネート機能を持ちます。
- ④ 各支援チームで、内部研修を実施します。内容については、サービス管理責任者会議で検討。

人権、権利擁護を絡めた研修を年2回を予定します。

⑤ 全体会議 今年度は中止

⑥ サービス管理責任者会議

各チーム間の連絡調整、困難事例、懸案事項の検討、リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会を兼ねる。所長、各チーム主任およびチームリーダーが出席。月1回、原則第2水曜日実施。

月日	時間	月日	時間
4月7日(水)	13:30～14:30	10月6日(水)	13:30～14:30
5月12日(水)	13:30～14:30	11月10日(水)	13:30～14:30
6月9日(水)	13:30～14:30	12月8日(水)	13:30～14:30
7月7日(水)	13:30～14:30	1月12日(水)	13:30～14:30
8月4日(水)	13:30～14:30	2月9日(水)	13:30～14:30
9月8日(水)	13:30～14:30	3月9日(水)	13:30～14:30

⑦ 支援会議

各支援チームで、月1～2回の支援会議をおこなう。リスクマネジメントの検証もおこなう。

周知検討事項の他、個別支援計画の策定、検討の場とする。

(6) 預かり金の管理システムの充実及び構築

① 通帳・印鑑の主任・サビ管管理

② 個別会計管理ケースの施錠化

③ チーム内監査の実施(年2回)

④ 内部監査の実施(年2回)は、本年度は実施しない。

新型コロナウイルス流行時に、会議の中止や延期が余儀なくされたが、それを除けば、適正に実施することが出来た。講師派遣は、若干名の派遣にとどまった。権利擁護の研修は、各支援チームにおいて実施している。

#### 4, 研修

(1) 内部研修

全員が集まっての内部研修は中止。

(2) 外部研修※詳細別紙参照

① SDS(Self Development System 自己啓発援助制度)を採用し、自発的な研修参加。

② サービス管理責任者会議からの指名。

③ 計画的な施設見学 本年度は中止する。

④ 支援員1人に付き1回、興味のあるオンライン研修に参加し、研修報告を上げます。

(3) 資格取得研修

① 移動支援従事者 ② 行動援護従事者 ③ 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・認定心理士

<参加予定研修>

1	自閉症支援入門研修会	15	障害者のためのレクリエーション支援者養成研修会
2	全国知的障害関係施設長等会議	16	障害のある人を支援する防災研修会
3	全国自閉症者施設協議会研究大会	17	排泄支援の知識と技術の基礎講座
4	全国グループホーム等研修会	18	ダウン症支援セミナー
5	アメニティネットワークフォーラム	19	日本ダウン症会議
6	日本グループホーム学会全国大会	20	てんかん基礎講座
7	自閉症セミナー認知発達治療の理論と実践	21	ターミナルケア基礎研修
8	自閉症セミナー	22	高齢知的障害者支援のスタンダードを目指して
9	日本自閉症スペクトラム学会研究大会	23	社会福祉士実習指導者講習会
10	全国知的障害福祉関係職員研究大会	24	行動援護従事者養成研修
11	摂食指導(基礎・実習)講習会	25	移動支援従事者養成研修
12	リスクマネジャー養成研修会	26	全身性障害者移動介護従事者養成研修
13	「個別支援計画」作成および運用に関する研修会	27	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
14	包括的暴力防止プログラム(CVPPP)	28	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

(4) OJT研修

- ① 新人職員に、目指すべき目標を提示し、終了時に評価する。OJT担当を指名、3ヶ月間設定し、主に最初の1ヶ月間を重点的に実施します。
- ② 始めて会計を持つ際に、会計のOJT担当を指名し、1ヵ月ごとに会計を締めながら、習熟度を確認する。主任・チームリーダー・所長の許可が出たら、一人で会計が行える形にします。

オンライン研修及びオンデマンド研修を利用し、支援者1人1研修の参加が実施することが出来た。見学研修や自己啓発系の研修が思うように進まなかったため、来年度は、新型コロナウイルスの動向を見ながら、チャンスがあれば実施して行きたい。新人職員のOJT研修も例年通り行なっている。

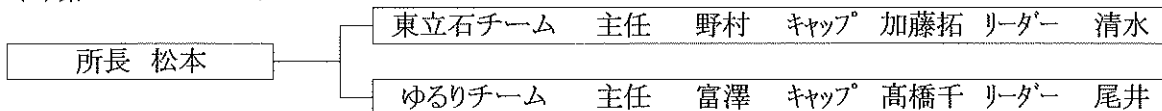
5, 法人事業・委員会担当

(1) 法人内事業所全体

- ① 労働衛生安全委員会 寺田
- ② かわら版編集委員会 浅野
- ③ PC委員会 山田遼 ・ 正能
- ④ 給与検討委員会 野村
- (2) 事業所内業務担当
- ① ハラスメント委員会 野村 ・ 堀越
- ② 虐待防止委員会 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ③ リスクマネジメント委員会 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ④ 苦情解決委員会 久保 苦情窓口 ( 清水 ・ 宮川 )
- ⑤ 防災委員会 大山 ・ 岡田 ・ 田口 ・ 遠野
- ⑥ 土田病院 山田遼
- ⑦ 健康診断・予防接種 箕 ・ 中村杏 ・ 鈴木健 ・ 杉山
- ⑧ 緊急一時保護コーディネーター 天野
- ⑨ 内部研修 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ⑩ 外部研修 松本(亜)
- ⑪ 余暇支援担当
- 1)ランナーズクラブ 鈴木誉 ・ 岡田
- 2)ソフトボールクラブ 井川 ・ 山崎
- 3)英会話クラブ 後藤
- 4)アートクラブ 大島

6, 支援体制

(1)第3かつしかセンター

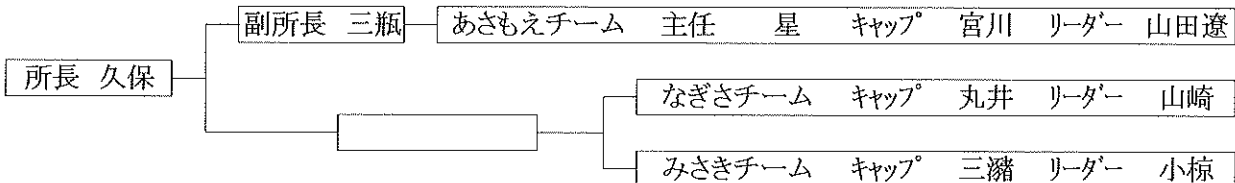


東立石チーム	主任	野村	キャップ	加藤拓	リーダー	清水
支援スタッフ	正能 鈴木(誉)	初谷	中村杏	遠野	加藤(美)	本橋
担当寮	定員	担当	調理職員他			
第2東立石成年寮	6	野村	(調理)	西		
東立石成年寮	6	正能/初谷	(調理)			
第三原町成年寮	5	加藤/遠野	(調理)	杉浦		
モア	2	中村杏	(調理)	後藤		
スワン	2	本橋	(調理)	佐藤		



ゆるりチーム	主任	富澤	キャップ	高橋千	リーダー	尾井
支援スタッフ	後藤 古澤	箕 葉山	大野	浅野	田口	山田将
担当寮	定員	担当	調理職員他			
ゆるり	10	富澤	(調理) 小松 (清掃) 佐藤	(早出・調理) 入江		
ハート	4	高橋千	(調理) 吉羽			
チロル	5	山田/田口	(調理) 新井			
くすのき	5	富澤/尾井	(調理) 戸國			
かしの木	3	尾井				

(2) 第4かつしかセンター



あさもえチーム	副所長	三瓶	主任	星	キャップ	宮川	リーダー	山田遼
支援スタッフ	矢野	井川	天野	山田(遼)				
	小河	岡田	松田	堀越	鈴木健	中村久(非)		
担当寮	定員	担当	調理職員他					
あさぎ	7	星	(調理) 稲上・関根・鈴木					
もえぎ	5	星	(清掃) 大貫					
第七原町成年寮	4	山田遼	(調理) 穂刈					
ラブ	6	岡田/小河/天野	(調理) 保富					
こい	4	鈴木健/堀越	(委託) 才津					

なぎさチーム	キャップ	丸井	リーダー	山崎
支援スタッフ	加藤法	井上	大島	大山
担当寮	定員	担当	調理職員他	
なぎさ	7	丸井	(調理) 川島	(清掃) 大貫
リーパーサイド	7	山崎/大山	(調理) 柏原・高木	(清掃) 大貫

みさきチーム	キャップ	三瀧	リーダー	小椋
支援スタッフ	杉山	堀内	山坂	寺田
担当寮	定員	担当	調理職員他	
みさき	7	三瀧	早田	
オリザ	4	山坂	古津	

以上

## 事業活動

今年度より体制変更に伴って、ヘルパーの確保を重点に置きながら、ヘルパーの質の向上を心掛けた。同時に、観察力を高めながら、利用者の身体面、精神状態、あらゆる点を総合的に観察しながら、日々の実践の中で専門性及び、コミュニケーションの向上や障害特性の理解を深められるよう業務の遂行に努めた。同時に支援に従事出来る環境の整備として、ヘルパーとの引継ぎミスを防ぐために書面・メールを含め対面や電話にて再度確認を行った。

在宅利用者の支援については、ニーズに合わせた支援が行えるよう、ご本人や家族の情報を幅広く収集し分析を行えるよう、そして今後、必要となるQOL向上のためのプログラム等の実践や、楽しく安全に外出できるよう努力した。GHの利用者の余暇支援については、担当者との連携を図り、ガイド時のご本人の様子や希望外出先等の情報共有を図り、よりよい支援に繋がれるよう支援に努めた。居宅介護・行動援護の利用者については、定期的にモニタリングを実施し、支援計画を作成し、定期的なモニタリングや支援計画を行うことにより、よりよい支援に繋がれるよう、取り組みを行った。コロナ禍の中、どのような支援が利用者のストレス発散、体力面や健康維持に繋がり、安心して利用して頂けるようにすることや利用者余暇支援の充実を図るためにどうしたらいいかをヘルパー同士情報共有しながら協議し、何処かに出かけることだけでなく、ご本人やご家族の心に寄り添い、傾聴することによる支援を行えるよう心掛けた。

## 実績報告

月毎での実績件数は下記の通り

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
移動支援	81	97	73	107	115	109	154	154	148	137	86	95
居宅介護	8	9	12	11	13	13	17	12	10	7	2	13
行動援護	77	117	71	88	131	94	105	117	115	126	59	79

## 苦情解決

第三者委員会・所轄に報告すべき事項なし

事故（ヒヤリハット）に関する事案

ヒヤリハット内容	2022年度
服薬に関する事案	0件
怪我に関する事案	0件
その他	0件

## 研修

発達障害者相談支援研修 (鶴岡)(川澄)

## 管理運営

法人内委員会については系でんわ、ドロップ、はんもっく共通での役割分担を行っている。

# 2021年度 はんもっく

(自立生活援助)

## 事業報告

### ※活動報告

今年度の実績状況は令和3年4月30日終了期限の男性利用者1名のみの実績であったが、これまでも法人内のグループホームやサテライト型グループホームからの移行するケースが主であることから、今後もニーズに合わせたサービスの提供が出来るよう準備を整えながら、業務の遂行を行っていく。制度として、サービスの提供が有期限（原則1年）の中で、単身生活を見据えた生活の支援を担う事業となるが、これまで期限満了後も担当支援員への相談を含めて関わりは継続している。同時に、今年度より制度の改定にて緩和された部分もあることから、運用の仕方を模索しながら、今後も検討を行っていく。

### ※管理運営

法人内委員会や研修については、ドロップや糸でんわ等、法人内他事業所との兼務の中での事業となることから、連動性を図りながら、業務を担っている。同時に、対象者は法人内のグループホーム等の利用を経る中でのサービス提供を行う流れにより、グループホーム担当者とも連携を図りながら、必要な支援や環境の整備をしてきている。引き続き、体制作りを踏まえ、整えていく。

## 2021年度 糸でんわ 事業報告

### ※実績の報告

2021年度の実績報告は計画相談 339件、モニタリング 862件の導入を行っている。  
月毎の数は下記の表の通りであるが、月毎での件数が異なるため、段取りをしながら整備を行っている。例年通り、計画相談に関しては、利用するサービスに関しての新規利用やサービスの変更への把握に努め、更新に関しても書類作成の不備がないよう、計画的に遂行出来るよう努めた。アセスメントについても丁寧な形で整えられるよう心掛け、モニタリングに関しても利用者を含め聞き取りを重視する形を整えながら、遂行した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談	24	20	50	22	26	38	22	22	20	24	19	52
モニタリング	40	43	131	64	58	87	55	37	163	56	59	69

### ※社会福祉士等現場実習

社会福祉士等現場実習については下記の通り4名の実習生の受け入れを行った。

所属	性別	実習期間	窓口担当
東京家政大学	女性	令和3年8月2日～9月3日	糸でんわ
日本社会事業大学	女性	令和3年12月1日～12月14日	通勤寮
日本福祉大学	女性	令和3年9月1日～10月2日	通勤寮
上智大学	女性	令和3年8月1日～9月26日	通勤寮

### ※見学応対

昨年に引き続き、今年度も法人内事業所の利用を前提とする見学応対等が多く、利用する予定である事業所との連携を図り、随時行う形で調整した。コロナ渦の影響もあり、件数は減少した。

### ※管理運営

指定特定相談事業については、報酬区分の創設に伴って、事業所として人員配置等の体制整備を行い、特定事業所加算・機能強化型の届出をし、今年度より報酬の改定がされた中での運用が出来ている。法人内委員会については糸でんわ、ドロップ、はんもつく共通での役割分担を行っている。苦情解決においては第三者委員会・所轄等に報告すべき事項はなかった。

### ※研修

強度行動障害支援者研修（基礎・実践）修了（福島）  
発達障害計画相談支援研修 修了（穂積）（宮本）（米岡）（福島）（川澄）  
サービス管理責任者更新研修 修了（穂積）（福島）  
発達障害者相談支援研修（穂積）（宮本）（川澄）

葛飾区で開催している葛飾区相談支援専門員研修会に関しては年間通した参加を行っている。

## 2021年度 奥戸福祉館 事業報告

### I 運営全般

今年度は生活介護事業所が36名就労継続B型事業所が25名の合計61名でスタートし10月に就労継続B型に2名入所、3月末で生活介護1名退所となった。

コロナとの共存、感染対策2年目となり予定していた行事は今年度もできなかった。

作業は外部への活動を継続しながらフラワーメリーゴーランドの花ガラつみ植え替え、通信発送ボランティアの活動を新たに実施した。ボランティアをされる側からする方へ地域貢献の小さな取り組みとして利用者のやりがい充実感を得られる良い機会となった。

清掃洗濯チームとゆずやタッセルオリブチームとの一体化運営は職員配置の関係で難しかった。ゆずやタッセルでの活動は実習という形で多くの利用者が体験することができた。

老人ホームでの施設外就労のスマイルホーム清掃活動はコロナの為引き続き休止となったがグループホーム清掃活動は安定維持できた。施設外就労先のリハビリケアかつしかの活動でもコロナの影響で活動が休止する期間が多かった。

就労B型事業所では休日の販売活動がほぼ中止になり保育園の給食パン納品と平日販売活動を行った。

利用者関係ではシャインから異動の利用者が4月に入館し今年80歳になる利用者が退所となった。10月に新しく入館した2人は一般就労していた元奥戸福祉館の方である。

防災意識を高める取り組みの外出としてお台場のそなエリアに行くことができた。福祉館改修の検討の話し合いは行ったが深めるまでは至らなかった。

高齢化対策委員会を発足しそれぞれのチームでの共通課題を確認し学習する機会を作った。来年度も継続していき具体的な提案方針を出せるようにしていきたい。

コロナ感染対策を講じてきたが冬場、年明けから家族感染が多く職員や寮の利用者、家族等陽性反応や濃厚接触が多くコロナの対応に追われる一年だった。しかしクラスター化せずに福祉館の活動は通常通り行うことができた。

来年度はコロナと共存しながら利用者の高齢、障害の重度化健康対策等の課題の解決とやりがいのある作業の提供、働くことと余暇のバランスを考えていきたい。

保護者の高齢化に伴う家族支援も増加していく為引き続き他の関係機関と連携を取っていきたい。

### II 利用者支援

#### 1 事業活動

奥戸福祉館全体平均工賃 21,878 円 (18,714 円) ( )は昨年度

(1) 就労継続B型事業所 月平均工賃 30,758 円 (26,115円)

#### <パンチーム>

今年度は、昨年度より経済が動き、少しずつ以前のような販売活動ができるようになって

てきた1年だった。しかし、大きなイベントは軒並み中止となり、保育園の納品や平日の販売活動での売上がメインとなった。休日販売での大きな収入はなかったものの、今まで関係を築いてきた保育園からのご注文や平日の売り先での常連のお客様など、地域の方々に支えられていることを痛感することができた。

数名の高齢の利用者に対し、本人と相談しながら日中のプログラムを作る取り組みを実施することができた。しかし、いまだ配慮が必要な方はいるが、本人の意向がそちらにむかわなかったり、具体的なプログラムを作れなかったりと実現に至れなかった。作業提供については、来年度に向けて、取引している保育園へ理解を求め、精査することができた。作業配慮については実施しやすくなっていくだろうが、活動のプログラムについてはチーム内だけでは解決できない点もあり、来年度以降他チームとの協力も必要である。

また、生活の場で問題を抱えている方や健康配慮が必要な方など、多くのニーズが生まれており、福祉館以外の関係機関との協力や家庭との連携がより重要となってきている。密な協力体制は今後も積極的に築いていく。

2名の利用者が年度途中でメンバーに加わりそれぞれの能力でできることを模索しながら作業提供を行った。2名とも楽しんで作業に加わっている。今後、加齢などで現状のように作業に携われない方も増えていくことも予想されるため、新たに加わっていく方々のアセスメントをしっかりと行い、引き継いでいくことは課題である。

地域交流、福祉教育の機会はコロナ禍もあり、行う事が出来なかった。しかし、昨年から続けている子ども食堂への提供、フードドライブの協力は行う事が出来た。昨今叫ばれているSDGsの流れもあり、食を提供している事業者としてその考え方は無視せず継続していきたい。

食品衛生法の改正に伴い、「HACCPの考え方に基づいた衛生管理」が求められるようになった。施行前には準備ができ、対応する事が出来ている。しかし、記録は継続していかなければならず、また知識のばらつきは職員間でも存在するため、知識を共有していく必要がある。HACCPは食の安全を確保するための記録であるが、事故報告が3件あった。同様なことが起きないように、気を引き締めていきたい。

【総売上：15,901,512円】（14,374,506円）（ ）は昨年度

※内訳 納品：11,799,743円

保育園：6,651,553円（5,977,977円）

SBB：3,308,000円（3,473,000円）

販売：2,574,763円（休日販売の実績はなし）

（2）生活介護事業所 ◇月平均工賃 15,465円（13,515円）

<清掃洗濯チーム>

「健康でいきいき暮らす」…生活介護18名、就労継続B型13名の31名で活動を行った。

（10月より新入館者就継B型1名含）

介護老人保健施設「リハビリケアかつしか」では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響

響を受けつつ、年間を通して施設外就労を行う事が出来た。特別養護老人ホーム「スマイルホーム」では、前年度同様に作業場所を限定（施設外周清掃）して活動を行った。館内清掃では、食品衛生法の改正によるHACCPの導入・義務化に従い、トイレ清掃などHACCP制度の考え方を新たに取り入れた清掃行程を増やし、館内の衛生管理に努めた。法人グループホーム清掃では、寮との連携をさらに重視し、作業を行うにあたり情報のやり取りを頻繁に行い、感染防止に努めながら活動を行う事が出来た。レンタルタオルもグループホーム清掃同様に情報交換を第一に感染防止に努め作業を行った。今年度はアルミ缶リサイクルが好調で、大幅に収益を伸ばす事が出来た。洗車隊では、持込の洗車依頼が減ってしまい作業がない状態が続いた。原町かわら版の発行・発送も4回行う事が出来た。新規作業で、京成立石駅ゆうちょATMブースの清掃を行った。同じく、ゆうちょATM特別清掃として、江戸川区役所やイオンショッピングモール他などへ出張清掃にも出向く事が出来た。2か月に一度、ウェルピアかつしかへ葛飾区報の発送作業ボランティアに参加し、地域に貢献していくという姿勢を見せる事が出来た。今年度下半期より金曜日の午後に余暇の時間を設け、ボッチャ、散歩、創作、映画鑑賞など行い、仕事だけではなく心も身体もリフレッシュ出来る環境を取り入れた。3月に身だしなみ講座を行い、社会人としてのマナーを再確認する事が出来た。シンフォニア東武等、他施設の学習見学は感染拡大防止の為にやむを得ず中止した。年間を通して利用者に対して多彩な作業提供が出来、やりがいや達成感を数多く感じていただけるような活動の場を提供する事が出来た。

<清掃チーム総売上 7,642,359円> (6,520,976円)

○売上目標 (930万)

・館内清掃 洗濯	1,440,000円	
・生活寮清掃（お墓清掃含む）	2,723,650円	(2,324,000円)
・洗車隊	9,600円	(13,000円)
・スマイルホーム	138,000円	(204,000円)
・リハビリケアかつしか	1,957,707円	(1,823,443円)
・かわら版	300,000円	(300,000円)
・アルミ缶リサイクル	360,960円	(113,893円)
・レンタルタオル	338,505円	(302,640円)
・ゆうちょATM清掃	161,640円	
・お茶、その他	212,297円	

<従たる事業所 ゆず屋・タッセルチーム>

タッセルでは緊急事態宣言発令に伴い、4～6月は臨時休業としたが7月以降は営業を再開している。座席数を7から4へ減らし、各テーブルには飛沫防止パネルを設置、お客様へは入店前のアルコール消毒の徹底をお願いし、感染拡大への対策を講じた。売上向上はできなかったが、お客様の安全・安心に過ごせる場所の提供と共に配膳を行なっている利用者の感染リスクを抑える事を重視してきた。

パン工房ももちゃんで作られたパンを不定期に店頭で販売しており、好調な売れ行きを

維持することができた。

ゆず屋では感染症対策として、提供品衣類の天日干し、店内レイアウトの変更、カゴの消毒などを行なった。緊急事態宣言が解除された際に再開を待ち望んでいたお客様の長蛇の列ができた事を教訓に、セールスの事前告知を控えるなど、密集が予測される日を作らないように対応した。

法人内施設で自主生産した商品も順調に販売できており、各施設担当者とも円滑な連絡調整を取ることができた。

エコエコフェアや清掃工場販売会といったイベントはコロナウィルス感染症拡大により今年度も中止となった。

ゆず屋は利用者の実習先としての機能も併せもっており、実習を希望する利用者が1週間単位で交代に入れるようスケジュールを組み、12月までは予定が常に埋まっていた。施設関係者以外の人と関わる絶好の機会であるため、環境に柔軟に対応していく力を身に着けることに貢献できた。実習で培ったスキルを本来の作業に生かすとともに、自身の成長の糧にして頂きたい。

オリーブでは値付けや食器洗い、提供品の搬入搬出などの作業や、パソコンの打ち込みパズル、塗り絵、散歩、チラシ配りなどの余暇的な活動を行なった。午前、午後と利用者を入れ替え、1日を通して同じ環境では集中できない方や、その日の行動が気分が左右されやすい方、感情の起伏が激しい方などが心理的な負担がかからないように各々にあった活動を行なった。

奥戸福祉館のリサイクル作業では提供された品の搬入搬出、販売できるように分別、磨き、包装、値付けをした。また、オリーブ同様に塗り絵や散歩等の余暇的な活動も取り組んだ。

<ゆず屋チーム総売上 7,492,369円> (6,861,112円) ( )は昨年度

○売上げ	・タッセル	807,110円	(1,332,450円)
	・ゆず屋	6,685,259円	(5,528,662円)

2 余暇支援 (グループ外出) 今年度予定した外出はコロナのため中止した。

### 3 就労援助

葛飾区就労支援事業 (葛飾区補助事業)

クラフトと連携し、情報交換を行ったが就職を希望している利用者はいなかった。

### 4 保健

#### 1. 健康管理

- ① 毎身体重・血圧測定を行い毎月の変動を確認。血圧の上昇が持続している場合は内科相談時に嘱託医に相談。体重の増加が著しい利用者は運動を取り入れている。
- ② 定期健康診断 (7月28日) : 56名の利用者が実施。その他の利用者は各自で実施済み。



定期健康診断の結果については各家庭・寮へ配布し再検査が必要な利用者に関しては検査を受けるよう促している。

- ③ 歯科検診を予定していたがコロナのために行わなかった。
- ④ 歯磨き指導：毎年2回原田歯科往診にて利用者全員を対象に歯磨き指導しているが、今年度はコロナウイルス感染流行の影響により飛沫のリスクを考慮し中止。
- ⑤ 内科相談：毎月第2月曜日立石医院往診  
毎月10～12名の利用者を対象に実施。血圧の変動や健康診断の結果、症状、日頃の様子から利用者本人や職員が気になる事等を相談し、生活指導や通院を勧めることで病気の早期発見や悪化を防ぎ、治療を早期に開始できるよう努めた。
- ⑥ インフルエンザ予防接種（11月8日）：立石医院往診  
希望者50名の利用者に対し実施。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染の早期発見・予防のため通勤前・出勤時に体温測定してもらい発熱の有無を確認。体調不良者は自宅療養や通院するよう各家庭や寮へ協力してもらった。
- ⑧ 新型コロナウイルス感染陽性者の発生時には保健所と連携し、濃厚接触者を特定。自宅待機要請、PCR検査提出を行い感染拡大防止に努めた。

## 2. 機能訓練：高田PT（1月18日）

館内で機能訓練をしている利用者（9名）の現状と課題を分析し訓練内容の見直しを行った。

## 3. 衛生管理

- ① 検便による細菌検査の実施（利用者・職員対象）
- ② パン製造・販売従事者、タッセル従事者は月1回
- ③ 給食の食器洗い従事者は6～9月は月2回、その他は月1回
- ④ 上記以外の方は年1回

## 4. 職員の健康管理

- ① 1月～2月にかけて葛飾健診センターにて健康診断の実施。
- ② 利用者同様出勤前または出勤時に体温測定をするよう促した。

・コロナ感染者は1月からの職員、寮生等家庭内感染の流行があった。陽性者だけでなく濃厚接触者となり長期に休む人が多かった。職員は毎月PCR検査、抗体検査を積極的に行い感染防止に努めた。館内の活動はクラスター化せず通常活動ができた。

- ・骨折3名
- ・コロナ陽性者 8名
- ・インフルエンザ罹患患者 0名

## 5 全館行事

宿泊旅行とやまもも祭、ホテルでの忘年会は中止した。

## 6 地域交流

### 【地域交流】

コロナのため地域交流が難しい中9月より月1回区役所でフラワーメリーゴーランドという花がらつきや花の植え替え作業のボランティアを利用者7～8名職員2名で行った。11月からはウエルピアでの通信発送ボランティアの活動を奇数月利用者2名と職員1名で行った。

今まではボランティアをされる側だったがする側へのとりくみができ利用者も毎回参加することをとても楽しみにしている。

子ども食堂に定期的にパンを寄付するとりくみを引き続き行った。

### 【ボランティアの受け入れ】

コロナのためやまもも祭が中止になってしまいボランティアの受け入れはできなかった。

## 7 利用者自治会

今年度もコロナのために多くの行事が中止になってしまった。コロナ禍でも古希を祝う会、クリ忘年会、送別会等を互いに協力し合い企画を行なった。職員は運営時にそれぞれの意見が反映できるように心がけその援助を行なった。

## 8 家庭との連携

連絡帳を活用して家族や寮との連携を図った。必要に応じて電話連絡や面談グループホームの利用者は合同処遇会議を行った。

定例家族連絡会はコロナ感染防止のため行わなかった。

## 9 リスクマネジメント

- ・パン関係2件、ヒヤリハット2件計4件とけが7件、車両事故が4件だった。
- ・パン関係は、納品したパンの数間違え、スライスの枚数違いと、表示シールの貼り間違えだった。
- ・けがは利用者が作業中に転んでしまって肩骨折、と腰の骨折、脚ねんど職員が利用者を対応中に肩を骨折させてしまったこと、朝通所途中での自転車同士の事故、玄関のポストに頭をぶつけてけが、利用者が職員をたたいてしまい目をけが、めがねを壊すことがあった。
- ・ブロックに接触、屋根の高さに注意が行かずルーフをこす事故、駐車時に接触、車同士の軽微な事故があった。

## 10 広報委員

奥戸福祉館全体の活動を伝えるご家庭向けの通信を1回発行した。

原町かわら版は法人の広報委員会と協力し、編集作業・印刷・封入発送を行い、年4回の発行をした。

## 1 1 防災安全管理

(1) 訓練時は本田消防署へ自衛消防訓練通知書を届け出のうえ実地した。

実施日	種別	訓練内容
3月 9日	避難訓練	火災発生による避難、及び通報訓練。

コロナ禍により消防隊によるAED講習は実現できなかった。  
AEDビデオ鑑賞を行なった。

(2) 葛飾区地域防災無線の定期通信訓練を行った。(毎月1回)

※4月は実施していない。

(3) 火気施設点検を確実に実施した。

(4) 防火管理者資格取得した。(1名)

(5) 普通救命講習参加した。(1名)

(6) 防災用伝言ダイヤルにメッセージを吹き込む訓練を行った。(毎月1日15日)

(7) 「そなエリア東京」での防災体験を実施した。

(8) 降雪時の緊急連絡対応

※9月14日 オリーブ 火災避難訓練実施した。

10月と3月に図書館の避難訓練に職員のみが参加した。

## 1 2 苦情解決事業

・地域より2件、利用者家族から2件苦情があった。

1件は、ゆず屋の店員が長時間来客者と会話しているので指導してほしい、パンを購入時商品と表示シールが間違っていると福祉館に電話をした時に対応した職員の電話対応がよくないとの苦情だった。

利用者家族からの苦情1件は他の利用者からいじめられているとの訴えに対して改善策が不十分ではないかとの苦情と工賃を下げた利用者の家族から下がる事が納得できないとの苦情があった。

工賃が下がることが納得できない訴えがあった家族の方には福祉館の現状を説明し理解していただけるよう時間をかけて対応中である。この苦情が工賃評定票の見直し、福祉館内の環境整備、これまでの利用者支援の振り返り、見直し等を行うよい機会となった。

### Ⅲ 管理運営

#### 1 職員研修

##### (1)外部研修・講習会参加実績

研修・講習会・会議名	開催日・場所	参加者
新型コロナウイルス感染予防研修福祉施設編	6/16 オンライン	藤方
防火管理講習会	6/21～22 神田	大橋
福祉就労分科会	6/23 ウイメンズパル	横山
初めての社会福祉を学ぶ	7/6 オンライン	石川
ご家族とのコミュニケーション	7/7 オンライン	児山 高野
食品衛生責任者養成講習会	7/13 立川	工藤
発達障害をとらえ直す	7/16 オンライン	児山 荘司
サビ管研修	7/28 オンライン	柿木
〃	8/2 9/2、3 〃	児山
〃	11/10～11、15	〃
生涯発達に基づいた意思決定支援	12/13～14	児山 新井
私を感じる福祉への思い	9/11 オンライン	丸山
日中活動サービス支援のありかたについて	9/24 オンライン	山口
健康面から考える高齢期の過ごし方	10/13 オンライン	井澤 工藤 藤方 高野
人材成長研修		丸山
知的部会リーダー研修	10/28	丸山
高齢者基礎的支援	11/17 12/1 〃	工藤 井澤 高野 藤方
ライフステージに沿った個別支援計画を考える	12/9 〃	高野 児山
普通救命講習	1/13 渋谷区神南	横山
職場におけるメンタルヘルス対策	1/26 オンライン	丸山
マカトン法セミナー	2/4 〃	上條
ストレスマネジメント	2/4 〃	丸山
人間におけるストレスマネジメント	3/4 〃	丸山
高齢重度化への対応を考える	3/11 〃	高野 井澤 上條

## 2021年度 アンジュ 事業報告

### 1. 利用者状況（3月末）

○在籍状況 男性 18名                      女性 16名                      合計 34名  
 （平均年齢）男性 58.33歳      女性 60.18歳      全体 59.20歳

#### ○年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0	2	2	5	6	3	18
女性	0	2	1	3	6	4	16
合計	0	4	3	8	12	7	34

#### ○支援区分別

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	2	1	11	3	1	18
女性	3	3	6	4		16
合計	5	4	17	7	1	34

#### ○推移状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	21	18	22	19	17	20	21	20	20	18	18	22	236
男性	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	218
女性	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	187
利用者数	34	34	33	33	33	34	34	34	34	34	34	34	405
出席率	77.1	75.8	73.9	71.8	71.6	73.9	75.0	76.0	75.3	72.5	71.1	72.4	74.3

- ・新規利用者1名（9月GH1名）
- ・退所者1名（6月法人内他事業所へ1名）

### 2. 利用者支援

今年度から活動場所が2階の1フロアのみとなり、利用者間のトラブルは当初の予想通り日常的に起きたが、それぞれの利用者や職員の動きが見やすくなった。その事でそれぞれの動きや支援方法に対して、ミーティング等で意見交換する事が増えた。その結果、具体的な支援方法等の提案・共有に繋がり、以前よりも安定して活動が出来る様になった利用者も居た。

7月後半に1名の職員の新型コロナウイルス感染が判明し、利用者・職員がPCR検

査を受ける事となった。しかし、事業所内での感染は起きず、日頃の感染対策が効果的である事が証明された結果となった。その後の下半期の感染拡大時も当事業所からは感染者が1名も出ず、休業等する事もなく活動・支援する事が出来た。

外出行事については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施出来なかった。

### 3. 活動内容

#### (1) 生産活動

##### ○受注作業

下記の通り(株)東栄社、(株)オビツ製作所共に前年度実績を大きく上回る結果となった。(株)東栄社に関しては先方の体制が整い8月～受注が安定した。(株)オビツ製作所に関しては今年度もキューピー人形の組み立て作業は無かったが、スチール板の袋入れ作業に関しては台紙付けを追加して単価のアップを図った。また新規で人形のボディーの検品作業を受注した。

軽作業の充実を図るべく新たに清水ハトメ(株)よりサドル5個組み・箱詰め作業を請け負い、下記の通り売り上げた。結果として3社で1,197,624円となり、コロナの影響を受ける前の2019年度の水準にほぼ戻りつつある。今年度より2階のみでの活動となり、利用者の総数も51名から34名と17名減ったが、利用者1名当たりの売上金額は、26,370円(2019年度)から34,988円と大幅に増えた。

サドルの5個組・箱詰め作業は、今まで他の作業では集中力に欠く利用者が目を見張るようなスピードで作業に当たり、箱詰め作業に非常に高い技術を発揮する等隠れた能力を見せる利用者が複数名居た事も新たな発見であった。来年度も利用者にやりがいと充実感を感じてもらえるような作業を提供していく。

##### 収入

東栄社	1,052,355円(前年度対比108.7%)
オビツ製作所	53,694円(前年度対比410.8%)
清水ハトメ	91,575円(2021年7月～2022年3月)

##### ○委託作業

##### 清掃

今年度は、男性利用者が怪我から復帰したが、再度怪我により清掃活動を休止した。その為、主に8名で清掃活動を行った。新たに3階が第2かつしかセンター事務所となり、6月から新たな清掃場所として加わった。

清掃場所の追加や変更があった場合は事前に説明を実施し、職員と一緒に清掃を行った。定期的に職員が清掃活動の様子を見に行き、それぞれの利用者の作業工程の確認等を行った。作業工程通りに出来ていた場合は、その事を伝え、安心した表情を見せていた。1名の利用者は8月から清掃活動終了後に振り返り

ノートで振り返りを行う事で清掃活動に対する不安を軽減する事が出来、安定した通所や活動に繋がった。

## (2) クラブ活動

毎週金曜日に利用者の希望に沿ったコンテンツを鑑賞する DVD クラブと、塗り絵や公文を通し利用者間や職員とのコミュニケーションを楽しむお楽しみクラブの2グループに分かれて活動を行った。また、お楽しみクラブでは週替わりで手芸活動を行う事で毛糸の帽子や小物入れ、レターケースを作成した。その結果、多くの利用者が週末のクラブ活動を心待ちにしており、次回の DVD は何を観るのか、次回の手芸は自分の番なのか等の話が多く挙がっていた。しかし、散歩は計画的に行えず、数回しか実施出来なかった。

## (3) 体力・筋力の維持の取り組み

朝の朝礼後のラジオ体操、昼食前の嚙下体操、午後の昼礼後の介護予防体操を引き続き行った。嚙下体操は、職員が手本を示す形からごぼう先生の DVD を使用する事で皆画面の動きに合わせて体操する事で嚙下機能を高めた。また、介護予防体操は下半期から午後の休憩後から昼礼後に時間帯を移動した。また、新しい介護予防体操を理学療法士に依頼し、年度途中から取り入れる予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い理学療法士来所が中止となり、来年度より導入する形となった。

## (4) 機能訓練

昨年度新型コロナウイルス感染拡大防止の為休止していたが、今年度は4月よりマスク着用、消毒を徹底しながら再開した。久しぶりの再開だった為、参加利用者の現在の身体機能を確認した。訓練中は雑談等しながらとても和やかな雰囲気の中で訓練メニューに取り組んだ。しかし、2月以降は新型コロナウイルスの感染者増加により再び休止となった。来年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら、機能訓練の再開を目指す。

車椅子利用者の職員による歩行訓練を週2回午前中に行った。

## (5) 行事・余暇活動

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昼食外出等の外出行事は中止とした。代替案として近場への昼食購入を実施した。利用者3~4名、引率職員1~2名の小グループにて一人2回昼食購入を行った。1回目は吉野家、ちよだ鯔、から揚げの天才、イトーヨーカ堂、2回目はとんでん、デニーズ、ちよだ鯔、マクドナルドのいずれかを選んで昼食購入を行った。また、店舗までの距離や天候を考慮し、必要に応じて車を使用して店舗まで赴いた。いずれの回も普段よりもゆとりをもって職員とのコミュニケーションを取ったりと利用者それぞれが楽しんで参加している様子だった。

○お楽しみ会（お楽しみ昼食）

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、今年度はアンジュ2階にて崎陽軒のシウマイ弁当とケーキ、お土産のお菓子セットを提供する事でお楽しみ昼食とした。その際、還暦のお祝いも行った。マスク着用、ソーシャルディスタンス確保、三密回避を徹底しながら盛り上がっていた。また、当日は過去のアンジュ職員や関係者のメッセージビデオを鑑賞し、利用者それぞれの長所や頑張った所を賞状として授与式を行う等利用者間や職員とのコミュニケーションを楽しんだ。

#### 4. 健康管理

毎月体重・血圧測定を行い、定期健康診断を行った。また、昨年度に引き続き感染予防として、午前・午後の2回検温、活動前・昼食前の手の消毒、手すりや送迎車内等の消毒を行った。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 10/7

#### 5. 地域交流

新型コロナウイルス感染拡大の影響で福祉を学ぶ学生の現場実習や区内中学の職場体験実習の受け入れ要請はなく、他場面でも地域交流は出来なかった。

#### 6. 防災

感染予防の為、避難訓練という形は避け、防災ビデオを観賞し、地震・水害・火災時の対策を学んだ。また、日常的に避難路の確保に努めた。

10/26 防災ビデオ鑑賞 (地震・水害・火災)

3/9 防災ビデオ鑑賞 (地震・水害・火災)

#### 7. 苦情受付

利用者からの苦情は今年度も見られなかったが、GH職員へ利用者が直接言えない案件等を職員を通じて伝える事で改善等が見られたケースがあり、来年度も利用者の声に耳を傾け、活動面・生活面での福祉の向上に努める。

#### 8. リスクマネジメント

今年度も大きな事故は無かったが、安全面での配慮は必要な利用者も居り、その都度ミーティング等で改善案の提案、職員の配置等について検討を行った。

#### 9. 職員研修

##### (1) 職員研修

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、殆どの研修がオンライン研修になり、参加し



やすくなった。しかし、他法人職員との交流の機会が持てない事が課題となっている。

① 外部研修

○利用者が飲んでいる薬を知ろう(オンライン)	7/3	嶋村・佐藤
○サービス管理責任者研修(基礎)(オンライン)	7/26・27・31・9/8・9	高橋
○虐待防止・権利擁護研修(オンライン)	8/3・19・20・9/15	阿久津
○成年後見制度講演会	8/16	池上
○強度行動障害支援者養成研修(基礎)(オンライン)	9/2・3・7・17	佐藤
○会計セミナー予算・実践編研修	10/22	山田
○とっさの対応を学ぼう(オンライン)	10/30	樋口
○強度行動障害支援者養成研修(実践)(オンライン)	11/16・24・26・12/3	嶋村
○福祉施設における労務の基礎知識(オンライン)	11/30	阿久津
○サービス管理責任者研修(実践)(オンライン)	12/10・1/11・12	嶋村
○強度行動障害メディカルセミナー(オンライン)	12/17	李
○サービス管理責任者研修(更新)(オンライン)	1/13・2/22	阿久津
○高齢・重度化への対応を考える(オンライン)	3/11	嶋村

② 内部研修

○虐待防止・権利擁護	2/16	
------------	------	--

10. 第三者評価

にほんの福祉ネットにて訪問調査等を受けた。改善点を来年度に活かしていきたい。

シード（生活訓練） / フォレスト（就労移行支援） / 原町成年寮就労定着支援センター  
2021年度 事業報告

シード（生活訓練）定員15名

フォレスト（就労移行支援）定員20名

原町成年寮就労定着支援センター（就労定着支援）定員なし

1. 利用状況 月間平均利用者数 合計67.3人/月

シード 平均利用者数 14.1人/月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	13	13	13	13	13	14	15	14	14	15	16	16	169
のべ稼働日数	327	247	271	256	255	274	273	285	267	271	277	327	3330
新規利用	5	0	2	0	0	1	1	0	0	1	1	0	11
退所者	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
退所者内訳	うち就職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち就労移行	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	うち他施設	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
実習・体験利用者	0	0	0	2	3	2	1	1	0	0	0	0	9

フォレスト 平均利用者数 21.9人/月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	27	26	26	27	26	26	23	19	17	16	15	15	263
のべ稼働日数	540	482	569	536	543	520	444	348	335	267	254	304	5142
新規利用	6	0	2	1	0	1	0	2	1	0	0	0	13
退所者	0	1	2	0	1	1	3	6	3	1	1	0	19
退所者内訳	うち就職	0	1	1	0	1	1	2	3	3	1	0	13
	うち生活訓練	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	うち他施設	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	4
実習・体験利用者	0	0	1	4	3	2	5	2	1	0	0	1	19

原町成年寮就労定着支援センター 平均利用者数 31.3人/月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	36	36	35	35	32	31	30	30	30	29	25	26	375
支援件数	36	30	35	35	32	31	30	30	30	29	25	26	369
職場訪問件数	6	1	9	13	8	7	6	7	6	9	10	4	86
利用終了	0	1	2	1	4	0	1	1	1	2	4	0	17
新規利用	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	9

## 2. 支援体制

### 訓練プログラム（シード・フォレスト）

・シードでは周りのペースに合わせて行動できるようになることを目標に、体を動かす訓練ができる環境を整えた。具体的には平井ビルを賃貸し訓練プログラムにダンス、体操を導入。12月からは午前中に歩行訓練を導入した。

・フォレストでは全体指示に対して適切な行動を継続できるように、「いいね」を導入。プラスのフィードバックを効果的に行うことで、行動の定着を図ることができるよう取り組んだ。また、目標を達成するための具体的な行動を明示し、一人ひとりが達成できるようにフィードバックの徹底を図った。

### 就労定着支援

これまでで就労不安定者が一番多い一年であった。

原因として考えられるのは、新型コロナと職場環境に適応させるための訓練不足。

不適応を起こした利用者の行動から、必要と思われる訓練をシード、フォレストそれぞれに導入した。

## 3. 事業目標達成状況

### ① 地域に開かれた施設運営

1. 毎月ブログ記事の更新を行った。
2. 夏休み体験講座、春休み親子見学会を開催した。コロナ禍であったが、夏休み体験講座には計11名が参加。

### ② 利用者に寄り添い、一人ひとりの目標達成に向けた支援

1. 月1回の木鶏会、傾聴訓練を行った。
2. シード・フォレストのプログラムの見直しを行った。

### ③ フォレスト目標就職者数15名

フォレストからの就職者数は13名。

## 2021年度 シャイン 事業報告

### I 運営

従たる事業所キッチンKISSの加入による活動拡大や新型コロナウイルス感染予防等、利用者の健康を守りながらの運営と活動に臨機応変な対応が求められる一年だった。法人内の通所事業所や居宅事業所また他法人の事業所とも連携し協力しあった。

(奥戸福祉館と送迎体制の連携・パン配達の協力・利用者職員の交換実習等)

(GHなぎさ・みさきと日中支援の協力・夜勤体制の協力)

(他法人事業所から食材の仕入れや食材の受注)

#### 【利用者組織体制】 (2022.03.31)

就労継続B型事業所 定員 10名 利用者現員 9名 (男性： 5名・女性4名)

生活介護事業所 定員 30名 利用者現員 31名 (男性： 25名・女性6名)

(本体：定員 34名 利用者現員 26名)

(つむぎ：定員 6名 利用者現員 7名) (キッチンキス：定員 6名 利用者 2名)

#### 【会議・研修】

職員会議：月1回：全職員・ケース会議：随時・給食会議：月1回

軽作業会議：月1回・つむぎ会議：月1回

各研修：内部・外部 (権利擁護、虐待防止・感染予防等)

#### 【就労支援事業会計】

売上 (51,938,040) 円

☆給食 (36,925,030) ・お惣菜 (146,800) ・お弁当 (56,890)

GH 配食 (13,203,610) ※ロックダウン GH 臨時配食含む

自主生産 (食品) (0) ・公園清掃 (421,026) ・野菜販売 (108,870)

自主生産 (雑貨) (147,300) ・自販売機手数料 (69,553) ・駐車場清掃 (313,788)

定期便 (120,000) ・受託作業 (425,173)

※キッチン KISS の配食が加わり給食の売上が上がった。

☆利用者工賃平均工賃

令和3年度 (179,144) 円/年 (14,929) 円/月

### II 生活介護事業所

☆利用者工賃平均工賃

令和3年度 (179,148) 円/年 (14,929) 円/月

#### 【作業活動】

所内清掃と所内消毒、給食作業に使用する白衣等の洗濯・乾燥・保管を行い、食品に携わる施設として衛生を保てるよう努めた。その他、給食・洗浄作業や地域清掃、社内便封筒の作成、など個々の能力に合わせた作業を提供している。従たる事業所キッチンキスが加わり昼の配食が増加している。自主生産品では、プラバン・レジックアクセサリーの製作を行っている。健康面に配慮し、ラジオ体操 (第1から第3) と骨盤底筋を鍛える体操また認知症予防の体操を実施した。PT (理学療法士) を招き機能訓練を実施した。

【従たる事業所 つむぎ】

昨年度と同様にコロナウイルスの流行もあり活動の制限もあったが、大きな環境の変化も

なく、通常の活動を続ける事が出来ている。

◆作業面

①園芸作業（自主生産）

外部販売（マルエイ西葛西店 風のマーケット）ではシシトウの売り上げが上々、またハーブ等の売り上げも良く、来年度も主力商品として生産していく。

②清掃作業

公園清掃（区委託事業）→週2回、定期的に清掃をおこなっている。

駐車場清掃（外部受注）→コインパーキング清掃。

地域清掃（地域貢献）→3月より週一回、近隣の地域を中心にゴミ拾いを行っている。

③外部受託作業

ハトメ作業（外部受注）パッキン作業（外部受注）パッキン作業は今年度で作業終了。

④自主生産作業

プラバンのキーホルダーを作成。奥戸福祉館と連携し、ゆず屋にて販売を行った。

⑤ウォーキング

利用者の体調に配慮しながら週1回ウォーキングを行っている。

⑥創作活動

手形アートを制作、障害者作品展に出展している。

⑦宿泊訓練

コロナウイルスの影響もあり行っていない。

【従たる事業所キッチンKISS】

4月よりシャインの従たる事業所として活動。アンジュとシャングリラの昼の配食を行った。また、シャイン本体からの実習を受け入れ利用者の活動を拡大した。

### Ⅲ 就労継続支援B型事業

☆利用者工賃平均工賃

令和元年度（179,363）円/年 （14,947）円/月

【作業活動】

働く事を基本とし、一般就労を意識出来るよう支援を行った。食中毒や感染症(ノロウイルスとコロナウイルス)の予防に対する意識の強化に努めた。法人内のロックダウンしたグループホームに、食事(朝食・昼食・夕食)の提供を土日祝日含め行った。同法人内の事業所、葛飾区内の他法人事業所の自主生産品（パン・精米）を配食に使用した。また、他法人からの配食も受注している。

【食事提供】

① 調理作業

技術向上を目指し、各利用者に合わせて作業提供をした。HACCPに基づき食品の取り扱いや大型機器の取り扱いなど、衛生的且つ安全に行えるよう努めた。引き続き、調理実習の要望が多かったが、コロナウイルス感染予防の観点から今年度も実施していない

② 配膳作業

・コロナウイルス感染予防を考慮した弁当容器や備品を使用し、新たな1日の流れを利用

者にわかりやすく伝えていった。

- ・喫食者個々のニーズに合わせ食事形態(刻み食、ミキサー食、減塩食、代替食等)の対応を行った。
- ・日頃の手洗いや消毒などを通し、衛生への意識を高め、食べる人を意識した盛り付けへの配慮を心がけた。
- ・グループホームの配食は、個別の対応に応える為、確認作業の強化を行った。

### ③ 洗浄

- ・各々役割に対する責任や作業効率を上げられるよう支援を行った。必要に応じて備品の補修、修理を行っている。

### ④ 配達

- ・昼食、夕食共にゆとりを持った時間配分で安全運転での配達を実施している。
- ・昼食配達時に気持ちのいい挨拶が出来るように努めた。
- ・グループホームの配食先の増加、減少といった状況に合わせて配達ルートの調整を行い、職員間で周知を徹底することで、ミスの無いよう努めた。

### ⑤ 衛生

- ・HACCPに基づき諸々の衛生管理を実地した。
- ・細菌検査を月1回行った。
- ・調理従事者は、入室時、健康チェック及び身だしなみチェックを毎日行った。
- ・調理、配膳室には、2回の手洗いとトリミングを行ってから入室し、手洗いには専用の液体石鹸、爪ブラシ、ペーパータオル、アルコールを使用した。
- ・インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルス感染予防として、お知らせの配布、調理従事者への健康チェックの強化、館内の消毒を毎日行った。
- ・厨房等の害虫駆除を外部業者に委託して実施した。飛来昆虫捕虫テープの交換を行った。
- ・グリストラップ清掃を行った。外部業者にも依頼して清掃を実施した。
- ・保健所の立ち入り検査があったが、特に大きな指摘事項は無かった。
- ・検食及び保存食を行った。検食者は検食簿に記入した。検品時に原材料をそれぞれ50g採取し、保存食を盛り付け時に献立ごとに50g採取し、-20℃で2週間保存した。

### ⑥ 栄養指導

- ・食事療法が必要な利用者には、その都度アドバイスを行った。
- ・手指検査や食中毒について注意喚起とお知らせを配布にした。

### ⑦ 異物混入及び事故対策

- ・毎日作業終了時に報告し合い事故対策や防止に務めた。
  - ※6月にアンジュの昼食にビニール片混入。
  - ※10月に葛飾通勤寮の昼食に金タワシの一部が混入。金タワシの使用を禁止した。
  - ※2月にアンジュの昼食にビニール片混入。

### ⑧ 献立発注

栄養価のバランスや行事食等の楽しみを考慮し献立を作成した。また、業者ごとに発注書を作成。在庫管理と並行し調整しながら発注を行った。年度末に棚卸を行った。

### 【就労】

- ・一般就労を希望する利用者に向け社会スキル習得のための学習を行った。企業への実習

に向けた研修に参加し面談や履歴書の書き方などを学んだ。

・学習

Mさん 面接の練習、履歴書やエントリーシート記入の研修参加

・アフターケア

Kさん 電話や本人来所での相談

Mさん 健康や仕事内容フォロー

【食品売上】

食品売上 (50,332,330) 円

材料費 (23,915,059) 円

粗利益 (26,417,271) 円

(R3) 食品売上 (pq) = 50,332 円

粗利益 (mq) = 26,417 円 (粗利益率 52.5%) (mq%)

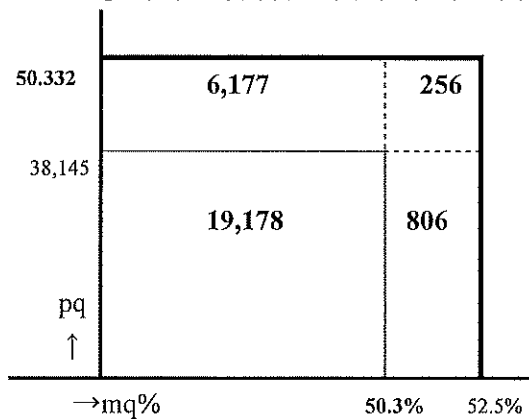
(R2) 食品売上 (pq) = 38,145 円

粗利益 (mq) = 19,178 円 (粗利益率 50.3%) (mq%)

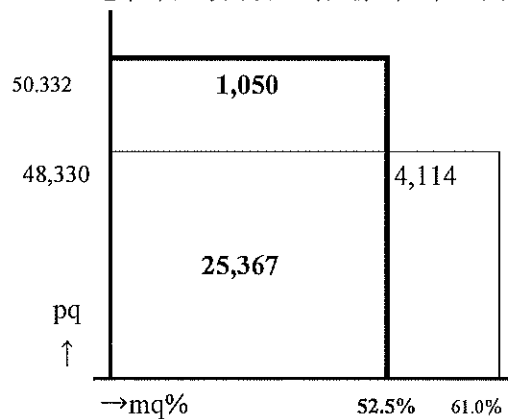
(売上目標) 食品売上 (pq) = 48,330 円

粗利益 (mq) = 29,550 円 (粗利益率 61.0%) (mq%)

① 粗利益分析表 (昨年対比) :千円



②粗利益分析表 (目標対比) :千円



★①昨年対比では、売上が上がったことより利益が上がったことが主な要因。

②目標対比では、売上が上がったが利益率が低かった為に利益が減ってしまった。

新型コロナウイルス感染予防の為、使い捨て弁当容器を使用する期間が長引き材料費が上がることを考慮した目標値になっていなかった為と考えられます

【食品販売】

① 惣菜販売

新型コロナウイルス感染予防の為、対面での惣菜販売は中止している。他法人グループホームから定期注文を受けている。

② 弁当販売

他法人事業所から注文を受けている。イベント販売はコロナウイルス感染予防の観点から参加を見送っている。来年度改めて検討していく。

### 【雑貨】

- ① 折り紙レジンアクセサリ、プラバンアクセサリの作成を行った。
- ② 今年度もレジンアクセサリをKURUMIRUから受注し、各店舗（東京都庁B1F・錦糸町店2F・伊勢丹立川店4F・Association MUKU）にて販売している。
- ③ 今年度も引き続き「ゆず屋」にて折り紙レジンアクセサリ、プラバンアクセサリを販売している。

今年度9月頃、折り紙レジンアクセサリを障害者の自主生産品を販売する「Association MUKU」という海外の企業から受注がありフランスで販売された

### 【販売会・受注販売】

新型コロナウイルスの影響により各イベントが中止となっていたが、少しずつ開催の連絡が届くようになった。今後のイベント参加に向け、利用者とイベント内容を振り返り意欲へつなげた。

## IV 利用者ケース

### ・Cさん（女性）

昨年度に国府台病院退院後本人の希望でシャインを引き続きお休みし院内のデイケアに通所した。しかし度々、乖離性の発作がみられ、安定した通所に繋がらず。6月に自傷行為が多くなり再度入院。その後もケース会議を重ね、生活環境を整える必要があることから、茨城県土浦市のGHへの入寮を検討した。GH実習後、本人からも転居の希望があり8月末をもって退所している。

### ・Sさん（男性）

入所当初より安定した通所が目標であり、徐々に安定してきたが、昨年度末頃より再び通所が安定せず。ケース会議や対話・取組み等を重ねたが、その後も欠勤が多く、本人から希望があり10月に退所となった。

### ・Nさん（女性）

9月下旬、通所時間になっても来所しない為居室を訪問すると、寝起きのような状態の本人を発見。健康診断日だったこともあり通所し健診を受けたが、微熱がありGHに送っている。その後高熱を出した為救急搬送され、蜂窩織炎と診断があり入院となった。

10月上旬退院し、自宅療養を経て通所再開している。

### ・Kさん（男性）

3月中旬、胸痛の訴えが続いた為通院した際に、転倒し左肩を骨折している。全治3カ月。送迎車を利用し、無理の無い範囲で活動を継続している。

### ・M寮利用者（男性6名）

2/16にTさんの昼の検温時に38度の熱があり早退。検査の結果コロナに感染していた。また同寮の利用者（6名）も感染していた。同寮以外の利用者は罹患せず。

## V 学習支援

希望のある利用者に向け、読み書きや計算、英語、塗り絵等の学習プリントを提供し



た。成果を実感できるように、個人の専用ファイルや終わったプリントに貼るシール等を使用した。コロナ禍により活動が制限される中、学習と余暇につながった。利用者より、調理師の資格取得に向けて勉強したいとの希望があった。施設既存のテキストを用いて学習を行った。

## VI 行事

コロナ禍により、全体余暇外出、ふれあいマルシェ等、行事が実施できないものが多くあった。ワクチン接種や感染状況が落ち着いている時機に合わせて、可能な限りの行事を実施している。お花見（小グループで散歩）、少人数での余暇外出、ハロウィンやクリスマス、豆まき等の年中行事など感染防止対策を講じ行った。成人を祝う会も時期をずらして実施している。古希や還暦のお祝いも状況を鑑みながら徐々に行う予定。お誕生日会を全体で行えない為、年度途中よりバースデーカードのプレゼントを行った。

## VII 保健

### 【定期健康診断】

利用者・職員共に実施した。

### 【健康管理】

- ・昼食前後の服薬はチェックシート、タイマー、服薬ボックスを用いて確認を行った。臨時薬(服薬・点眼・塗布薬)については、適宜確認を行っている。
- ・毎月、血圧・体重測定を実施。大きな変化が見られた際は、保護者やGH職員、看護師と情報を共有している。
- ・血圧が高い傾向にある又は高血圧の方は、毎朝通所時に血圧測定を実施した。
- ・家庭やGHと連絡を密に取り、健康管理に努めた。

### 【新型コロナウイルス】

新型コロナウイルスやノロウイルス等の感染予防に利用者職員共に取り組んだ。コロナウイルス感染者や濃厚接触者が出た際は、保健所の指示に従い速やかに消毒、PCR検査等を行った。事業所内での感染拡大はなかった。またマスク着用・検温の実施・換気を徹底し所内の消毒も強化している。全利用者職員に対してPCR検査を実施している。

### 【その他】

- ・毎月細菌検査を行った。全て陰性だった。

### 【PT】

PT（理学療法士）を招き、必要な方が受診している。年度当初に受診、半年後に見直し、年度末に総括を行っている。受診時後、個々に機能訓練プログラムを組み、週3回程度継続して行った。猫背等骨格の歪み、腰痛など身体の痛みやこわばりが軽減する等効果が見られている。

## VIII 防災

【自衛消防訓練(火災、地震、水害、不審者対応)】

火災、地震を想定し第一時避難場所へ避難する訓練を行った。（コロナウイルス感染予防の為、密にならないように行った。）水害の避難先はシャイン建物4階へ階段を使用し垂直避難訓練を行った。また不審者の侵入を想定し、不審者に対応した訓練を行った。従たる事業所つむぎ・キッチンキスでも一部同様な訓練を実施している。

## IX 地域交流・地域支援

- ・法人内グループホームへ、日中支援や夜勤業務等の乗り入れを行った。
- ・地域清掃…利用者の作業として行った。
- ・町会…地域や町会の行事は、新型コロナ感染予防のため中止も多く、三つの行事のみ参加し交流を深めた。（大しめ縄作り・年末の初詣の準備・森市地蔵供養）  
※森市地蔵の祠・南葛八十八霊場第12番弘法大師の祠の扉を利用者と共に修理した。

## X ボランティア

新型コロナ感染予防の為、余暇や行事等を小規模で実施し、葛飾区内の男性1名がボランティアとして参加している。

## 2021年度 シャングリラ 事業報告

### 1. はじめに

2020年1月に日本で新型コロナウイルス感染者が確認されてから2年余りが経過した。未だに先が見えない状況で感染やクラスターが起きないか不安はあったが、定員を20名から40名に変更した。生活介護事業所アンジュから14名が移動し35名でスタートしたが、5名が退所となった。

緊急事態宣言や地域の感染者状況を確認しながら余暇活動を実施したが、外部講師への依頼を中止するなど活動への影響もあった。また、高齢者支援の難しさをとても考えさせられる年度でもあった。高齢者特有の身体機能の低下は、個人差はあるが持病の悪化、入院、環境の変化等、何かがきっかけで急激に低下していた。利用者によっては運動機能の落ちるスピードが早く日常の動作も複数の職員の介助を必要としていた。職員の介護技術の専門性も求められ、運動機能が低下していく利用者支援の難しさを痛感した。現在も緩やかに機能低下している利用者も多い。高齢化により身体機能が低下した利用者の支援と介護保険の利用について来年度検討することとした。

### 2. 利用者状況

○在籍状況 男性名 女性名 合計 31名 (定員 40名)

○平均年齢 男性 66.2歳 女性 58.4歳 全体 63.4歳

○年齢別 (3月末)

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	1	3	1	5	8	2	20
女性	0	3	2	5	1	0	11
合計	1	6	3	10	9	2	31

○支援区分別 平均支援区分 (3月末)

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	1	4	8	2	6	21
女性	0	0	3	2	6	11
合計	1	4	11	4	11	31

○退所者 5名 (施設入所 1名 R3.6 死亡 4名 R3.5、R3.9、R4.1(2名))

○新規利用 1名 (R3.6)

○職員体制

管理者 1名 (兼)

サービス管理責任者 1名

生活支援員 11名 (常 9名・非 2名)

看護師 1名 (兼)

運転手 1名

事務員 1名

### 3. 利用者支援

#### ○軽作業

利用者も増え作業希望者も増えたことで、年間を通して作業を受注し提供することができた。利用者の体力面も考慮しながら無理のない範囲で作業を提供できた。

収入 242,589 円

#### ○創作活動

木目込みパッチワーク、キャンパス手芸など時間はかかるものばかりだったが、丁寧仕上げていた。一部の作品を区の障害者作品展に出店した。

9月以降からは、しめ飾りの作成に取り組み12月の区役所販売会と奥戸福祉館に協力をお願いしエコライフプラザ内のゆず屋で1ヶ月販売した。

しめ飾り収入 34,500 円

#### ○音楽活動

新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度の音楽活動は中止とした。

#### ○機能訓練

新型コロナウイルス感染症の影響もあり理学療法士による訓練は月2回とし、利用者14名がストレッチや歩行訓練を受けた。また、職員によるストレッチも継続し行った。

全体での嚥下体操は感染予防のため自粛したが、嚥下に不安のある利用者に対しては個別に訓練を実施した。

#### ○入浴

15名が入浴を希望し、一日平均9人入浴した。機能の低下とともに着脱に時間が掛かり入浴全体の時間が増していた。入浴時間に余裕を持たせるため、また今後増えた場合を想定し、送迎時間の見直しや入浴方法等検討する。

#### ○余暇活動

感染状況を見ながらドライブスルー利用や食事購入外出に変更し、小グループで実施した。

・ドライブ 6/8 6/10 6/15 3/30

・運動レクリエーション 月1回

・クッキング 8/20. 8/24. 1/18. 2/22 3/29

・すいか割り 8/3

・昼食購入外出 7/6 7/8 7/12 7/15 7/26 7/28 7/29

・昼食外出 11/4 11/8 11/9 11/11 11/17 11/30 12/2

・豆まき節分レクリエーション 2/3

#### ○行事

・納涼祭 8/31 ・お楽しみ会、長寿を祝う会 12/21

#### 4. 健康管理

健康観察のための体温・血圧・体調確認を徹底し行った。そのため、1名の利用者については変化に早めに気づき早期治療に繋がった。持病を持つ利用者も多く健康観察中に変化があればグループホーム職員を通し通院時相談をお願いした。

新型コロナ感染者については、利用者の中に陽性者は出なかった。グループホームでの感染予防の徹底と疑わしい場合は早めの検査を行っていた結果だと思われる。

職員については、家庭内感染から3名が陽性となった。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 10/7

#### 5. 地域交流

学生の実習は感染防止のため受け入れをしなかった。立石図書館のエコフェスタも中止となりエコポットを提供することができなかった。唯一、区役所販売会に利用者が参加できたことはよかった。

#### 6. 防災

利用者の安全を最優先とし、いざという時でも迅速に動けるよう避難・通報訓練、電子学習教材を使用した消火訓練を行った。感染予防の為、避難経路までの移動とした訓練を行い、防災ビデオの視聴による学習の機会を作った。必要な備蓄品の購入を行った。

- ・ 6月24日 (地震想定) 消火・通報・避難訓練
- ・ 10月21日 (地震想定) 消火・通報・避難訓練 ビデオ視聴
- ・ 12月27日 (火災想定) 消火・通報・避難訓練 ビデオ視聴
- ・ 3月16日 (火災想定) 消火・通報・避難訓練

#### 7. リスクマネジメント

ヒヤリハット3件、事故報告3件があった。歩行・トイレ内での転倒、服薬の遅れ等の報告があった。ミーティングで検証し、2度の確認による服薬確認の徹底、見守りや個別の介助方法の確認を行った。

#### 8. 職員研修

○内部研修

- ・ 感染症発生時の消毒法及び防護具の着脱法 8/20
- ・ 障害者虐待の種類(事例をもとに) 12/15

○外部研修

- ・ 福祉職員セットアップ研修 6/7 石井
- ・ 東京都強度行動障害支援者養成研修(基礎研修) 7/20.21 西岡

- ・東京都サービス管理責任者基礎研修 7/30 8/2.3.10.11 大場
- ・東京都障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策研修 9/9 崎代
- ・東京都サービス管理責任者実践研修 1/28 2/11.12 安藤
- ・東京都サービス管理責任者更新研修 1/11 2/25 丸山 1/12 2/15 春日

## 9. 各委員会

### ○虐待防止委員会

職員セルフチェックを行い、集計・分析し職員の傾向を導き出し、それを元に内部研修を実施した。

- ・職員セルフチェックについて集計・分析報告 11/17

### ○苦情解決委員会

苦情の申し立てが 1 件あった。施設のサービスに対する苦情であった。苦情受付後、迅速に対応、解決し、他の職員に周知した。